



三和油化工業株式会社

東証スタンダード市場／名証メイン市場
証券コード：4125

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月15日

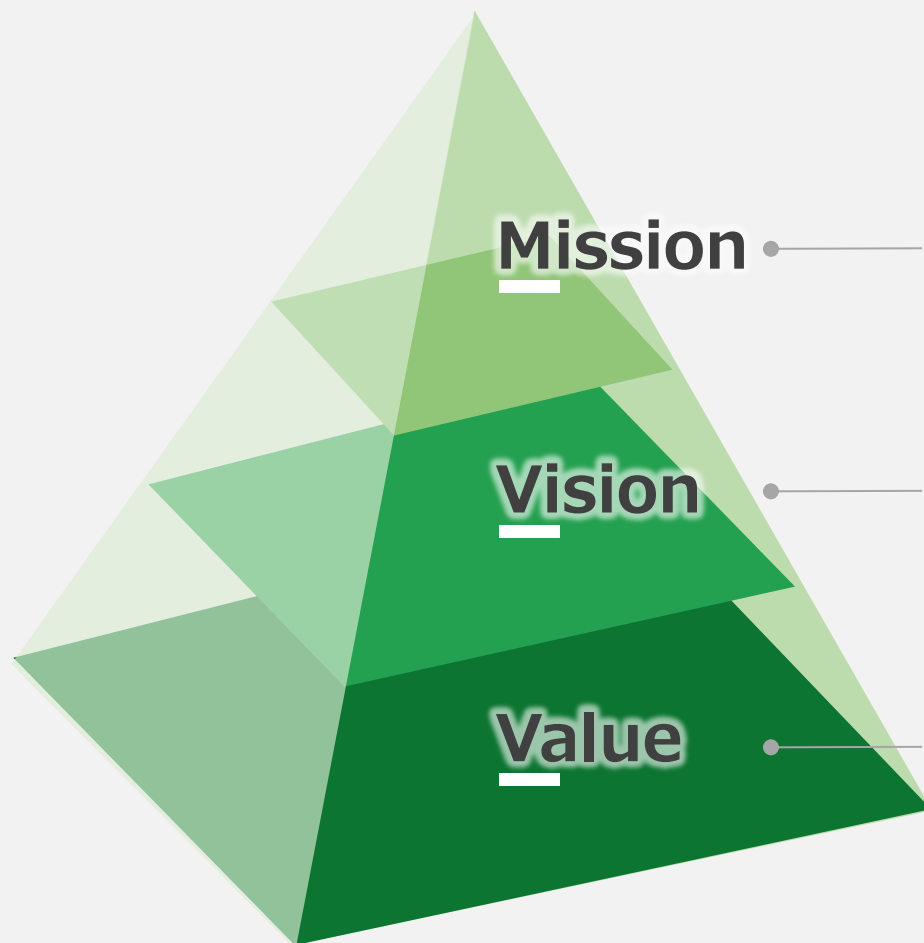


1. 会社概要	P. 3
2. 2026年3月期 決算概要	P. 7
3. 2027年3月期 業績予想	P. 17
4. 中期経営計画	P. 25
5. 資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について	P. 34
Appendix	P. 38



会社概要





我々は何のために
存在しているのか

「環境ニーズを創造する」をテーマに
事業活動を展開し、持続可能な
社会の実現への貢献

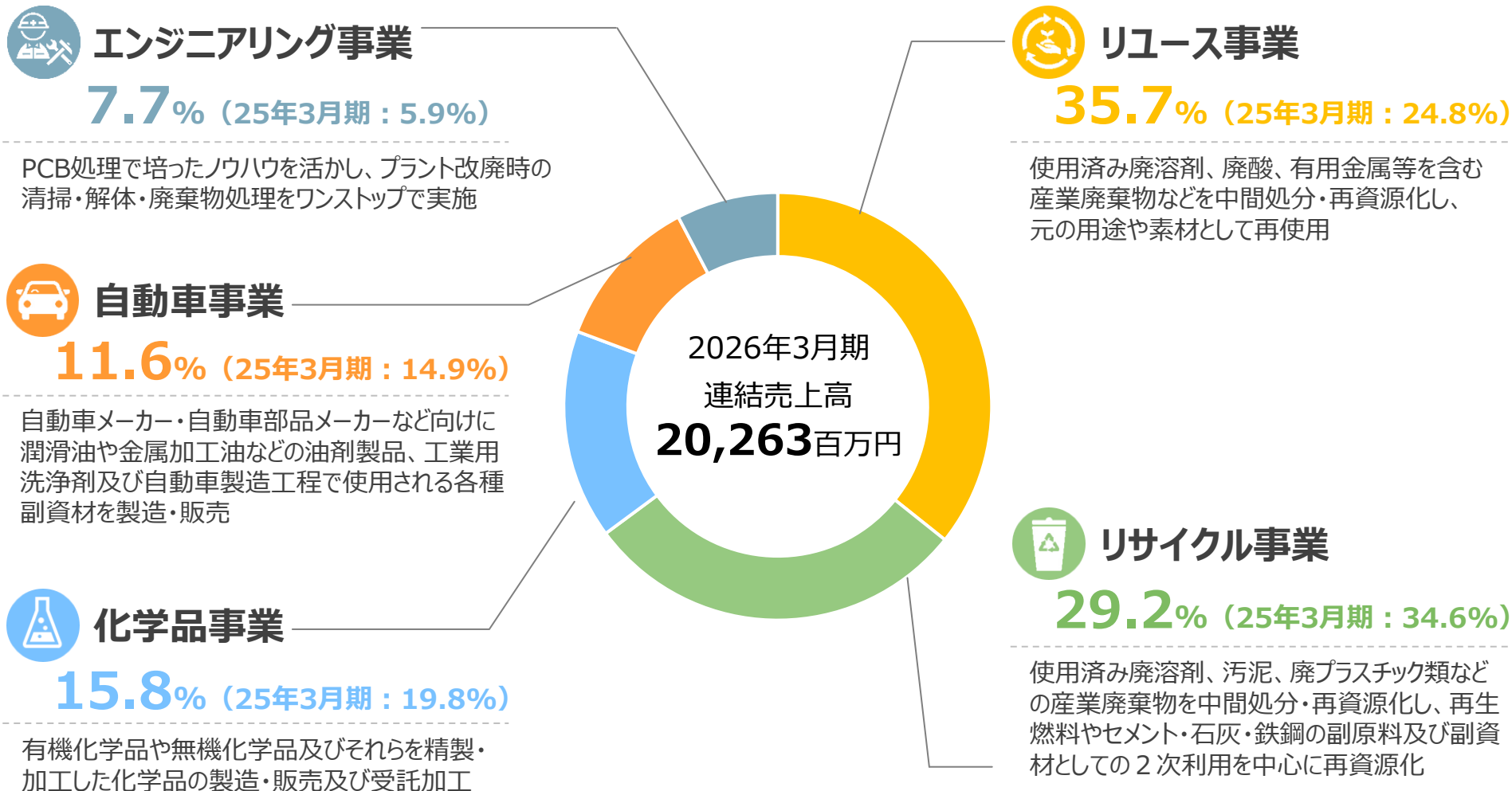
我々はどこに行こう
としているのか

社会から必要とされる
環境リーディングカンパニー
を目指す

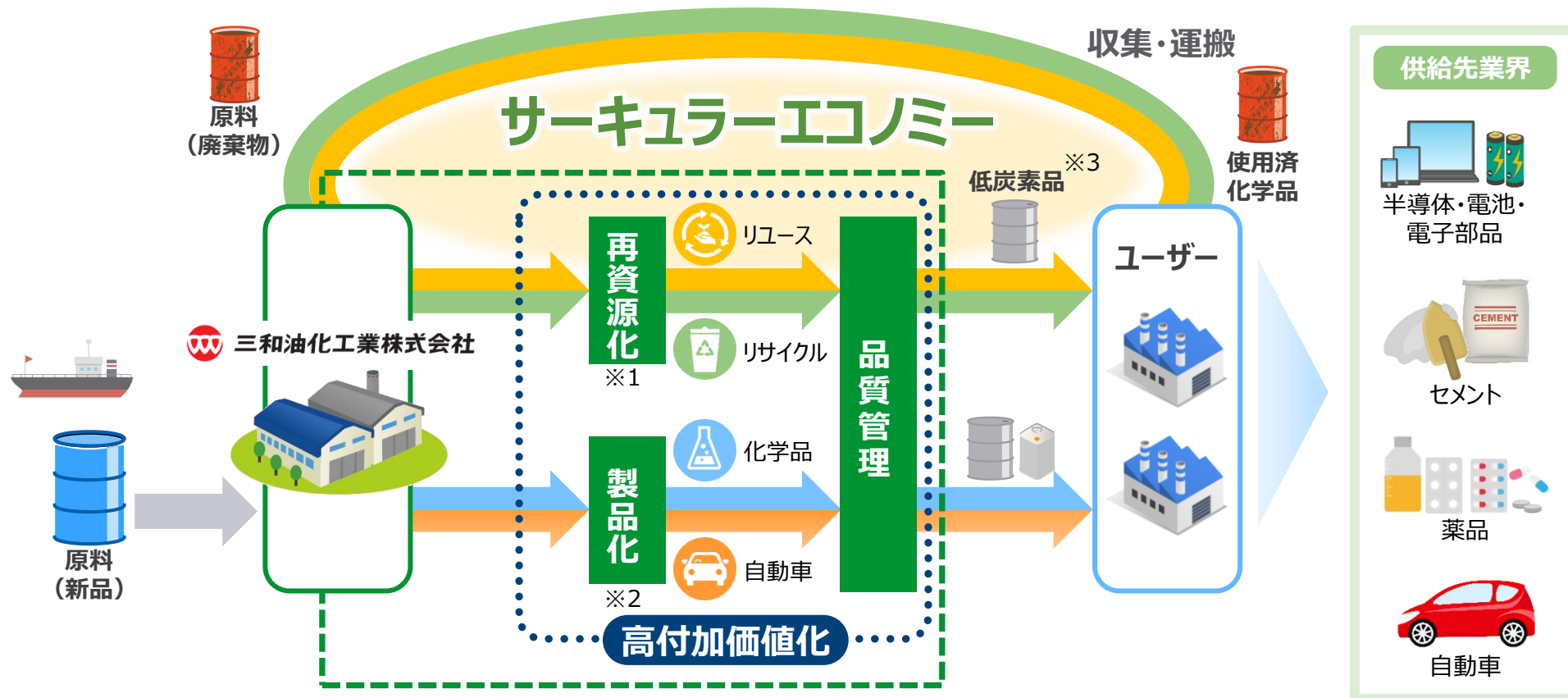
我々は何を大切に
しているのか

社会からより信頼されるよう、
「責任」・「挑戦」・「創造」の理念を
根幹に、与えられた役割を常に考え、
「誠実に、確実に」やり遂げる

■ 主力3事業のリユース・リサイクルおよび化学品事業で売上高全体の80%



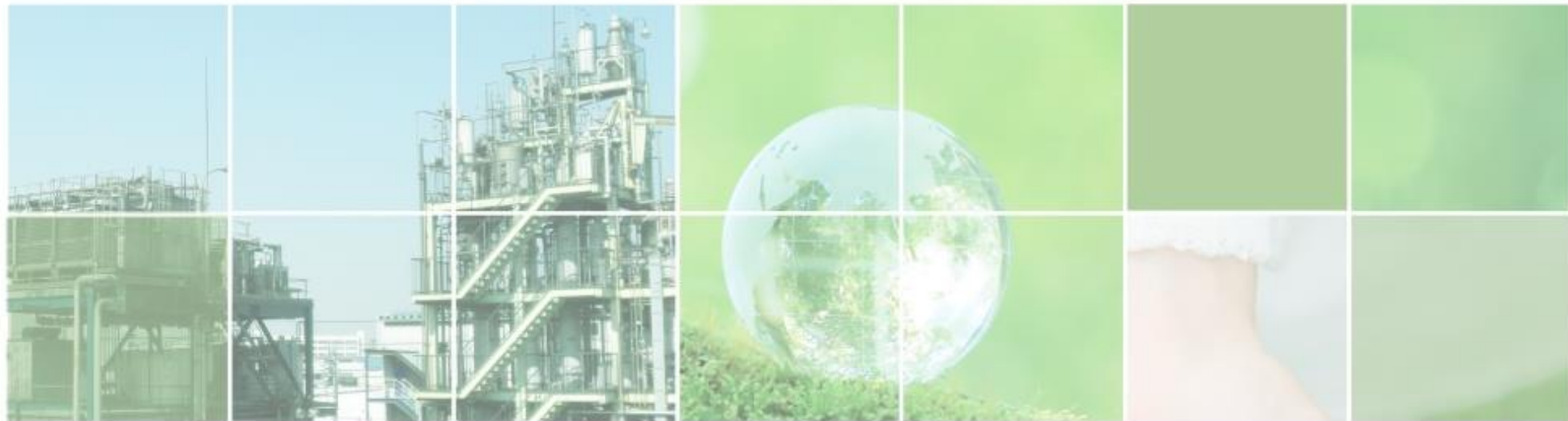
- 高度な技術力で分離・精製を得意とする**化学品リサイクルメーカー**
- 再生品および製品の品質管理を高い水準で行うことにより**高付加価値化**



※1 再資源化とは、使用済化学品等の産業廃棄物を分離精製や混合することにより、再生品・再生燃料等を生産すること

※2 製品化とは、調達した原料を高純度化や調合することにより、ファインケミカル品・油剤等を生産すること

※3 低炭素品とは、新品と比較して相対的にCO₂排出量が少なく製造された製品のこと



2026年3月期 決算概要



2026年3月期

売上高	営業利益	営業利益率
20,263百万円 【前年同期比】 26.3% 	1,543百万円 【前年同期比】 84.6% 	7.6% 【前年同期比】 2.4PT 

事業環境

- 中東情勢の悪化を背景に資源供給不安から再生製品の需要が増加
- インフレによる原材料価格・エネルギー価格・人件費等の高騰によりコスト負担は増加
- 自国主義を背景にした地政学リスクが高まり、先行きの不透明感が増加

内部対応

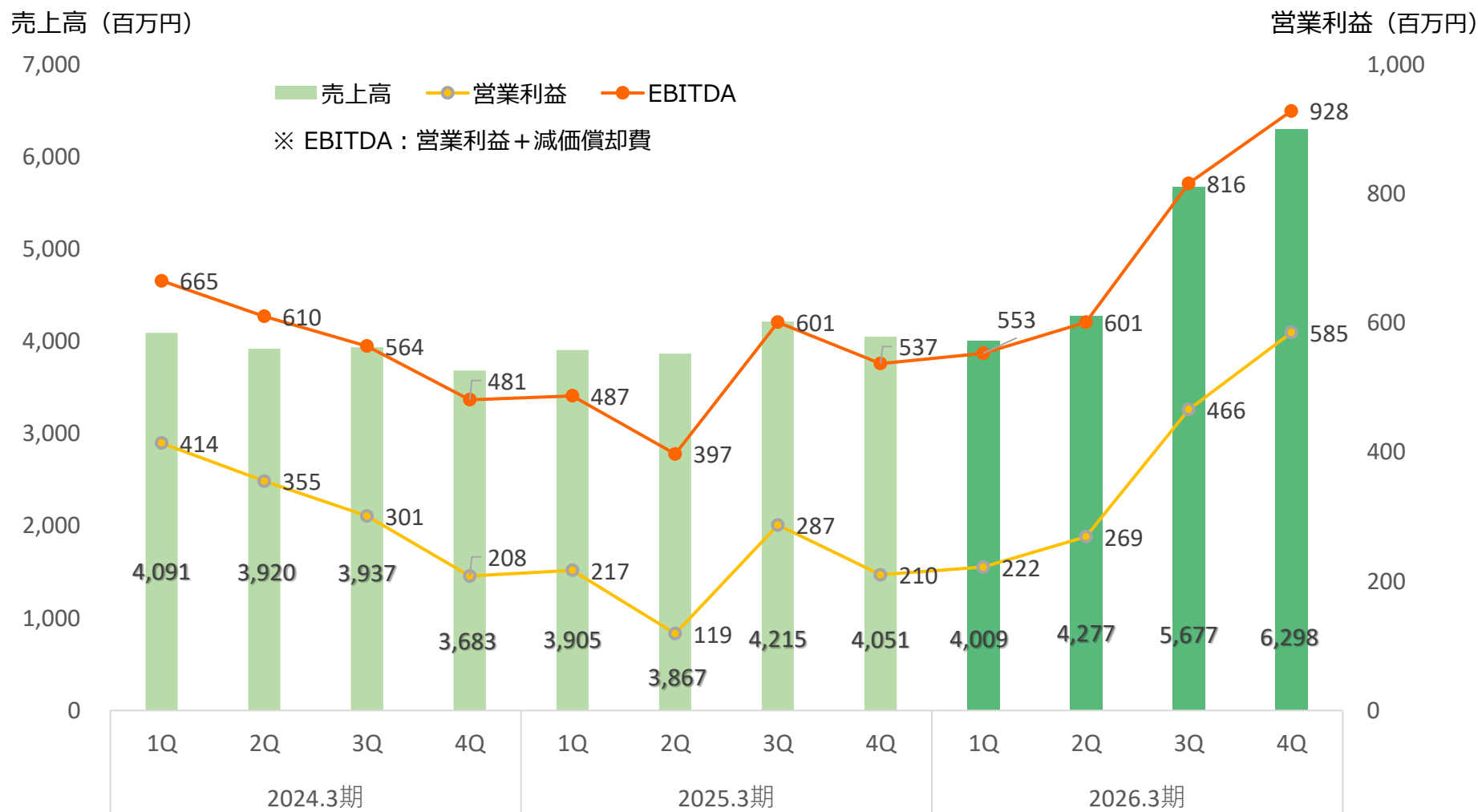
- 競争力のあるリユース・リサイクル事業に注力し、設備稼働率上昇や販売数量の増加
- 金属リサイクル会社とのシナジー発現に向け、事業連携を推進
- 中長期的な競争力強化に向けた技術開発や設備投資を実施

⇒ **足元の事業環境が急激に変わった中、強みであるリユース・リサイクル事業で成長
将来の需要増加に備えた投資及びコストが増加したものの増収増益で着地**

- リユース・リサイクルおよびエンジニアリング事業の業績拡大により**売上が増加**
- 工程改善活動や金属販売単価上昇の影響等により**利益額は大きく改善**

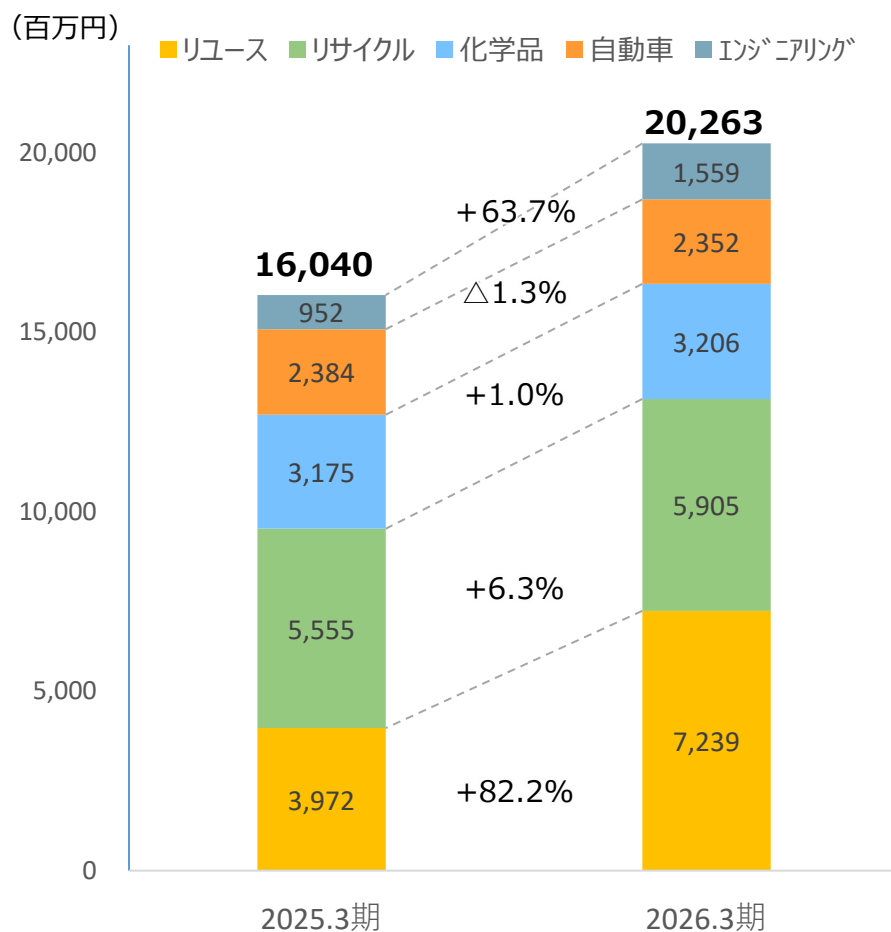
(単位：百万円)	2025年3月期		2026年3月期		前年同期比	
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	増減額	前期比
売上高	16,040	100.0%	20,263	100.0%	+4,222	+26.3%
売上総利益	4,504	28.1%	5,752	28.4%	+1,248	+27.7%
営業利益	836	5.2%	1,543	7.6%	+707	+84.6%
経常利益	897	5.6%	1,701	8.4%	+803	+89.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	591	3.7%	1,071	5.3%	+480	+81.2%

- 2025年度第4四半期は、既存事業の拡大や企業結合等により、**売上高・営業利益は過去最高**
- 継続的な設備投資での生産性向上や金属販売単価上昇により**EBITDA増加**

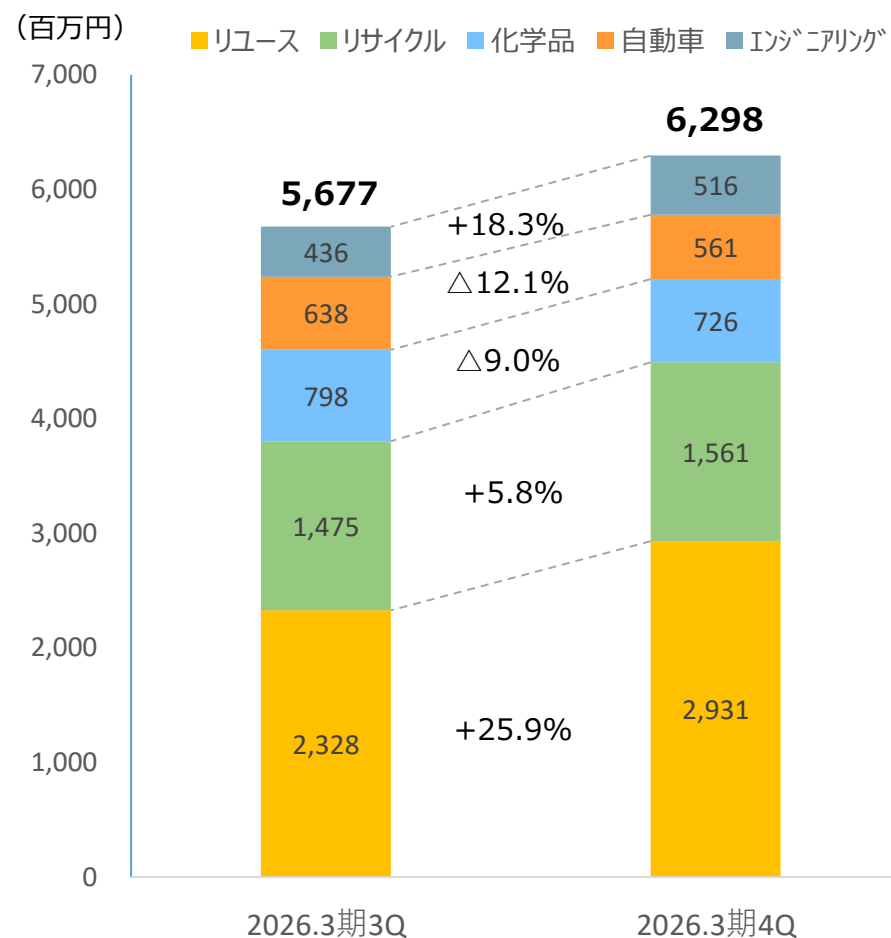


- リユース・リサイクルおよびエンジニアリング事業にて顧客の需要拡大をとらえ売上高は大幅に増加
- 電池向け製品需要低迷に伴い、化学品事業の成長は停滞傾向

前年同期比 (YoY)



前四半期比 (QoQ)

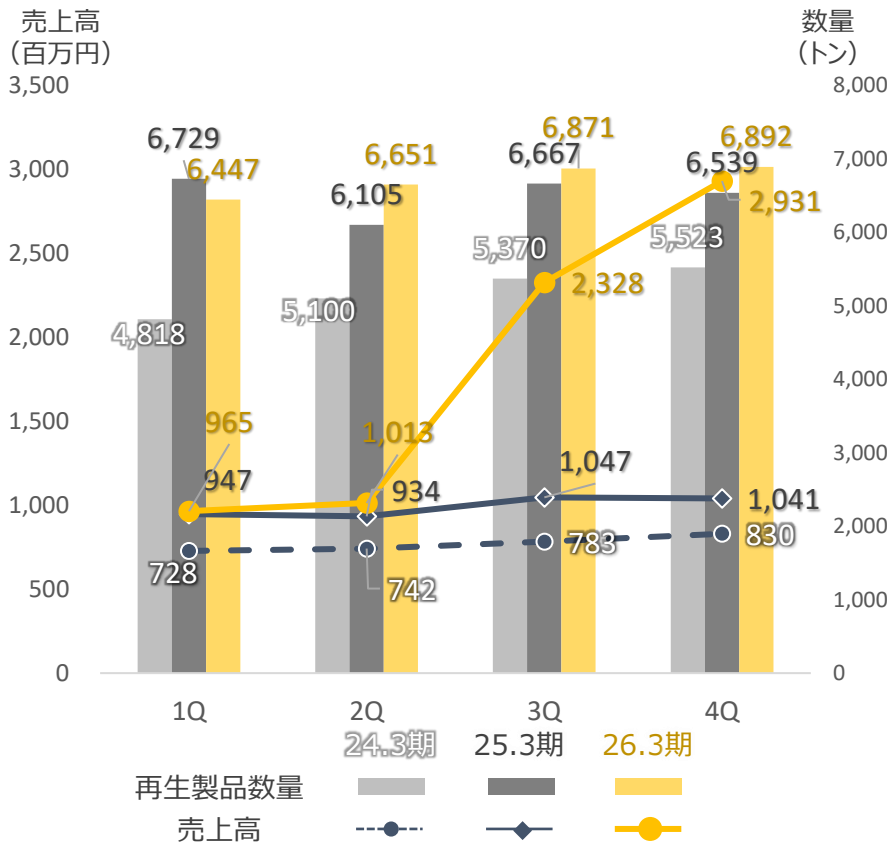




リユース、リサイクル事業（四半期ごとの推移）



リユース事業

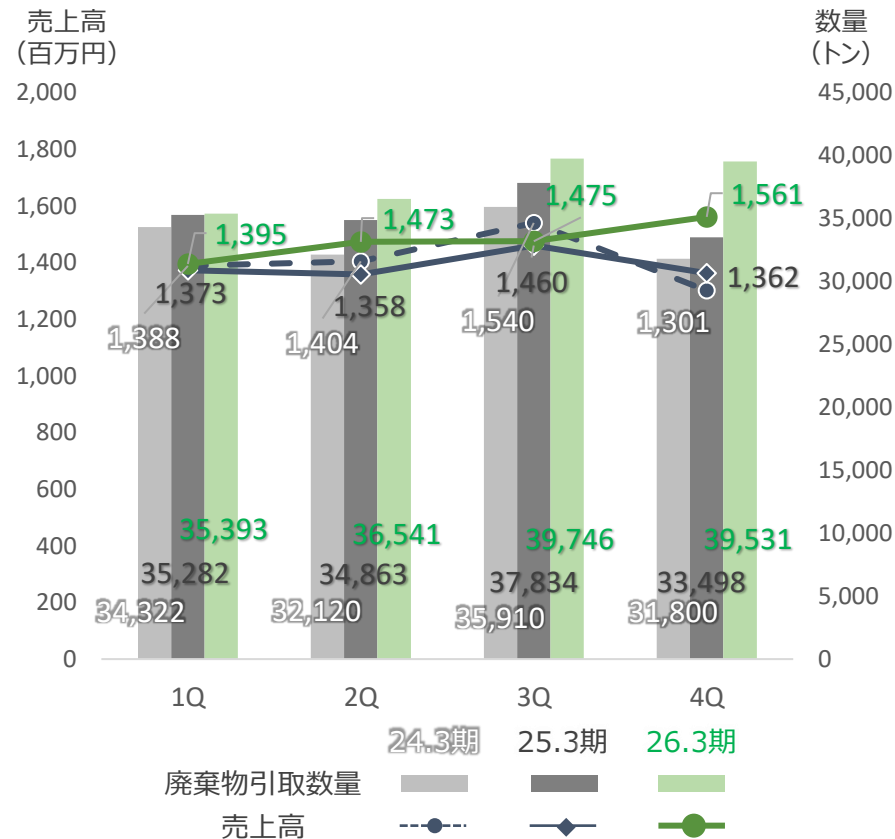


■ リユース事業売上と再生製品販売数量

- ・ 溶剤系再生製品は数量・単価ともに前年より上昇
- ・ M&Aにより金属事業が拡大し、売上高が大幅増



リサイクル事業



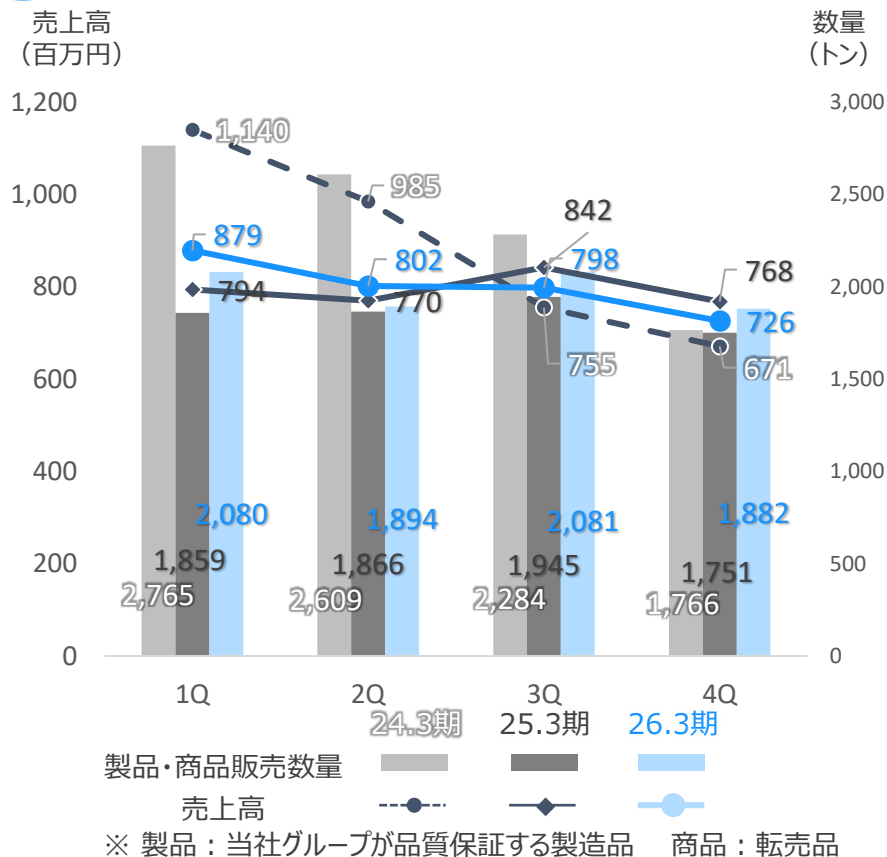
■ リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- ・ 廃棄物由来燃料の引合増により再生燃料販売は好調を維持
- ・ 競争環境や市場環境の変化により処理物引取単価が弱含み

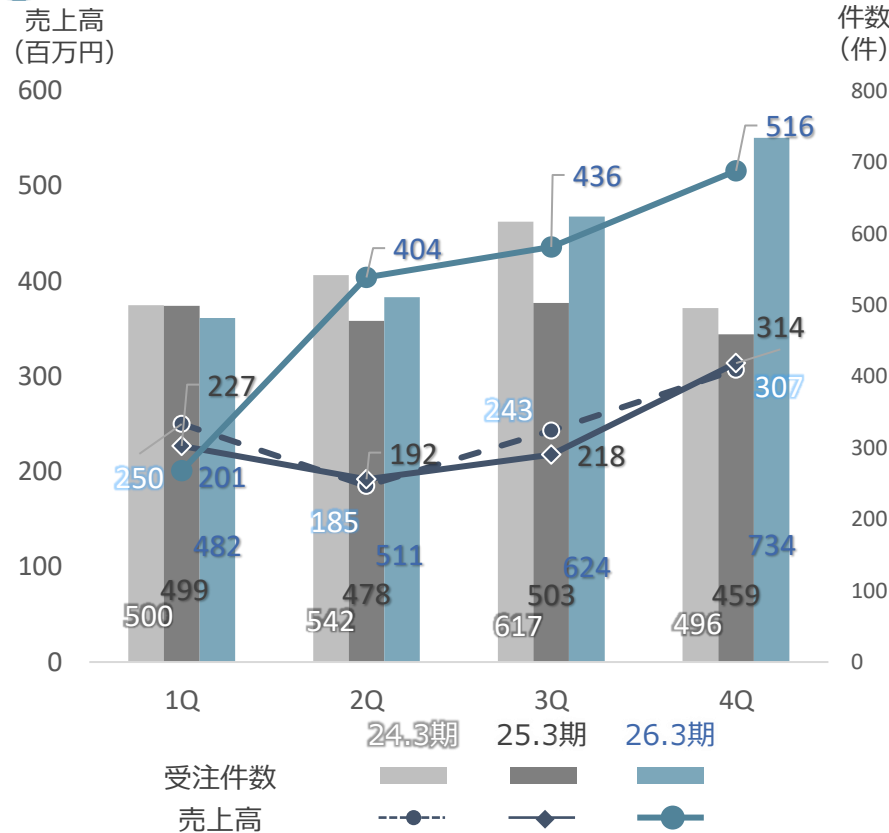
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



化学品事業



エンジニアリング事業



■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- ・ コモディティグレード向けの**ファインケミカル製品**は伸び悩み
- ・ 電池業界の成長鈍化により**主力製品の先行きは不透明**

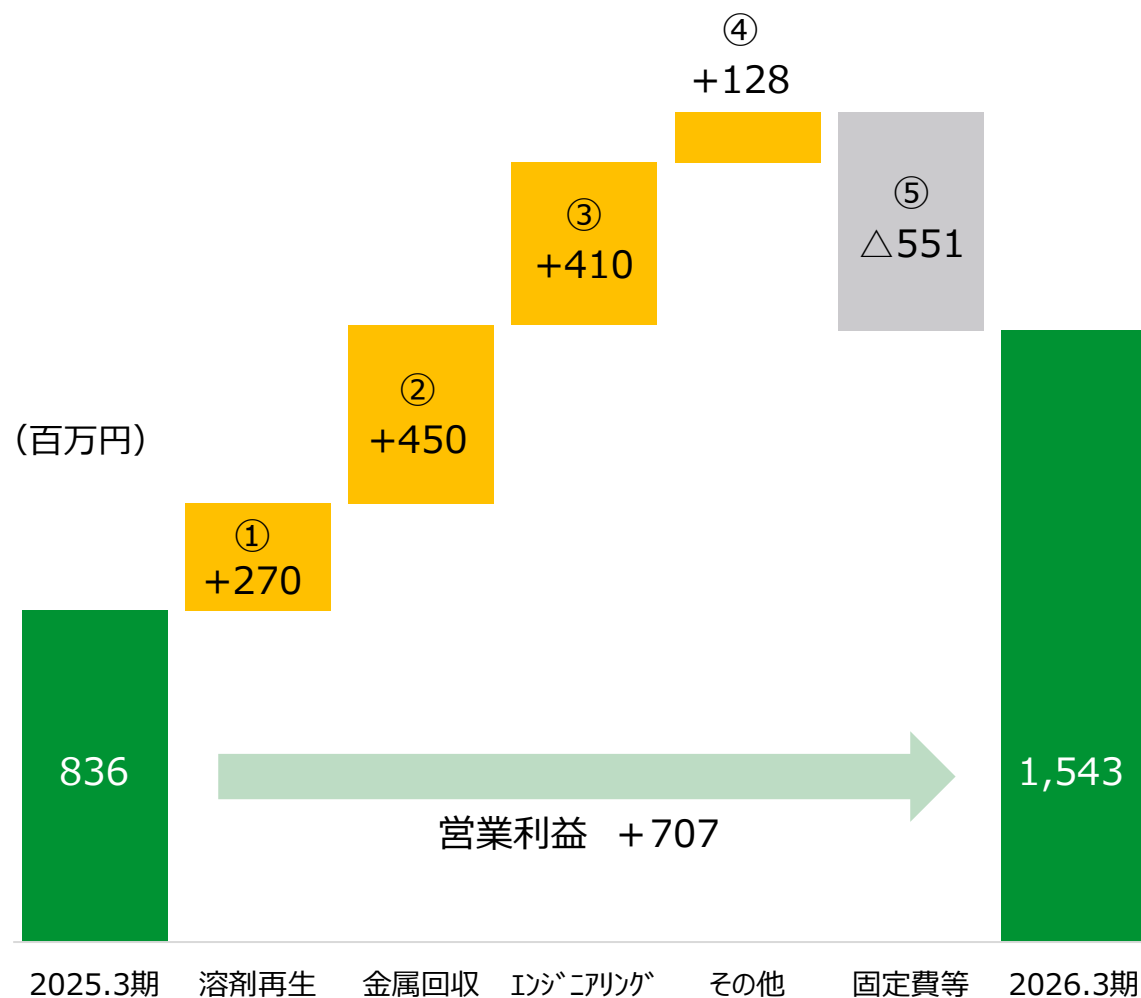
■ エンジニアリング事業売上と受注件数

- ・ 解体・作業案件も着実に**案件獲得数を増加させ売上拡大**
- ・ **PCB案件の引合は若干減少(処理期限は2027年3月)**

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

営業利益増減要因分析（前期比）

- 再資源化需要の高まりを背景に**溶剤再生・金属回収およびエンジニアリング事業を中心に業績が伸長**
- 再生品の原材料、労務費、運賃等の**コスト上昇以上の単価上昇等により営業利益拡大**



① 溶剤再生

- 〈+〉数量・単価共に上昇し、収益拡大
- 〈-〉原料となる廃溶剤の単価上昇により費用増加

② 金属回収

- 〈+〉数量・単価共に上昇し、収益拡大
- 〈-〉金属の単価上昇により仕入増加

③ エンジニアリング

- 〈+〉PCB処理期限が迫り、駆け込み需要獲得
- 〈+〉解体・作業案件の対応数増加

④ その他

- 〈+〉処理物引取増加により再生燃料販売増加
- 〈-〉電池関連製品の需要減少により販売減少

⑤ 固定費等

- 〈-〉副資材、運送コストの増加
- 〈-〉投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 〈-〉賃上げによる労務費の増加

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

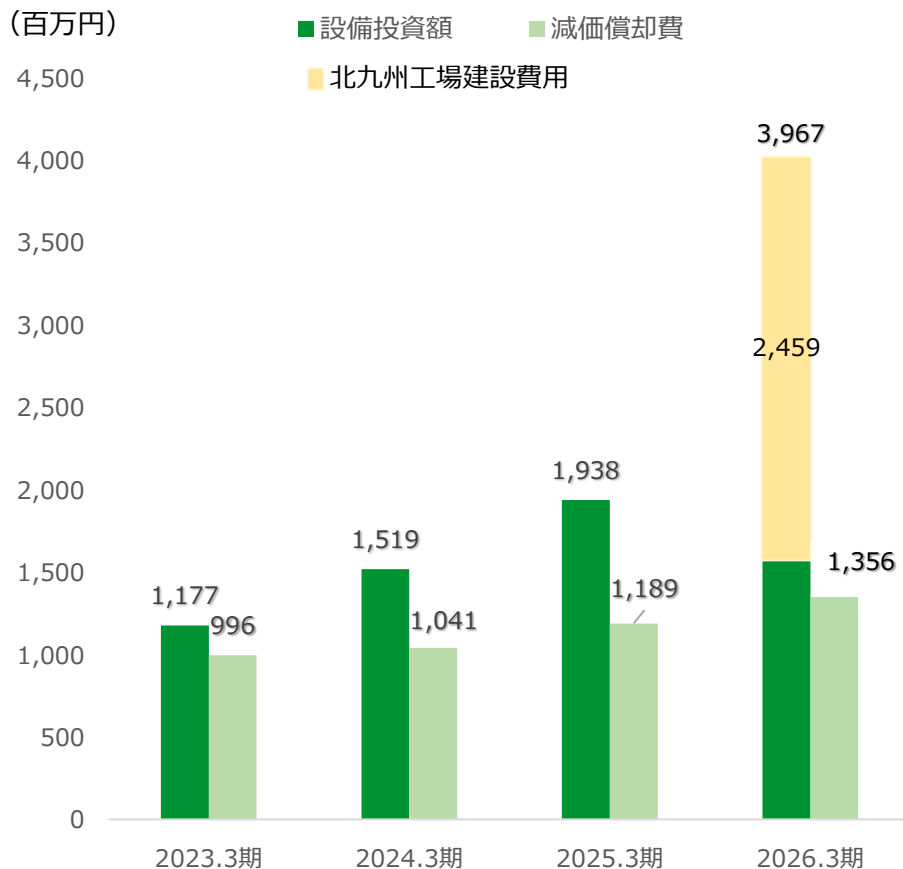
貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期	前期比 増減額	コメント
流動資産	6,077	7,794	+1,716	A&HJapan統合により売掛金・棚卸資産増加
固定資産	14,559	18,229	+3,670	設備投資により有形固定資産が増加
資産合計	20,636	26,024	+5,387	
流動負債	4,174	5,572	+1,398	設備投資により営業外電子記録債務が増加 利益拡大により未払法人税が増加
固定負債	3,949	6,971	+3,022	長期借入金の増加
負債合計	8,123	12,543	+4,420	
純資産合計	12,513	13,480	+967	利益獲得により利益剰余金が増加
負債・純資産合計	20,636	26,024	+5,387	

(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期	前期比 増減額	コメント
営業キャッシュ・フロー	1,671	1,944	+273	税金等調整前当期純利益の増加
投資キャッシュ・フロー	△2,495	△ 3,759	△1,263	有形固定資産取得額の増加
財務キャッシュ・フロー	△293	1,461	+1,755	長期借入れによる収入の増加
現金及び現金同等物の増減額	△1,117	△ 352	+764	
現金及び現金同等物の期末残高	1,626	2,159	+533	新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加

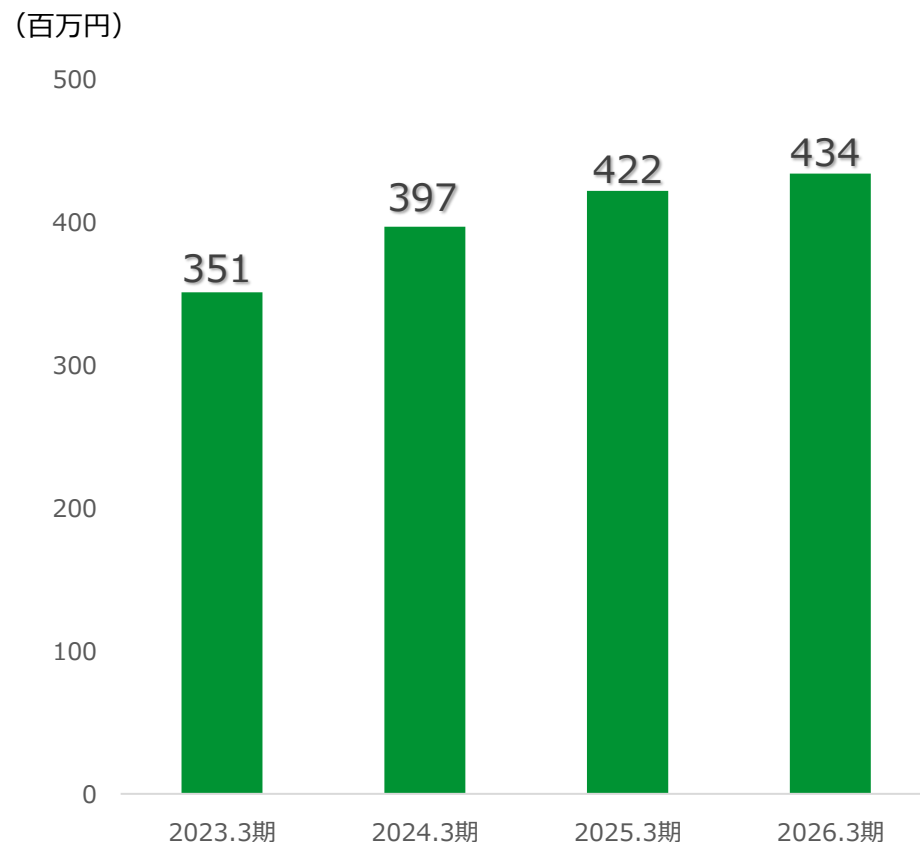
- 北九州市の子会社サンワマテリアルソリューションズ工場建設に遅延等の発生はなし
- 本社地区に将来技術を開発するための実験施設を設置し稼働開始

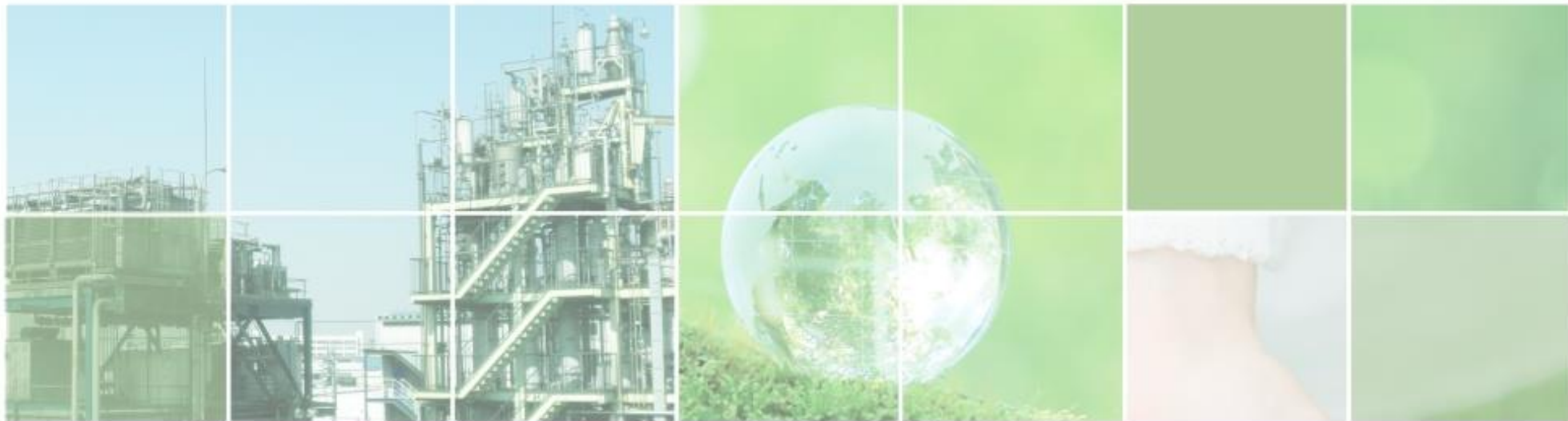
設備投資額・減価償却費



※減価償却費にはリース資産を含む

研究開発費





2027年3月期 業績予想



- ファインケミカル品を事業として独立させ、**エレクトロニクス業界向け製品等の販売を強化**
- 汎用化学品を自動車事業に含め、ベーシックケミカル事業に名称変更し、**機能材等の販売拡大**

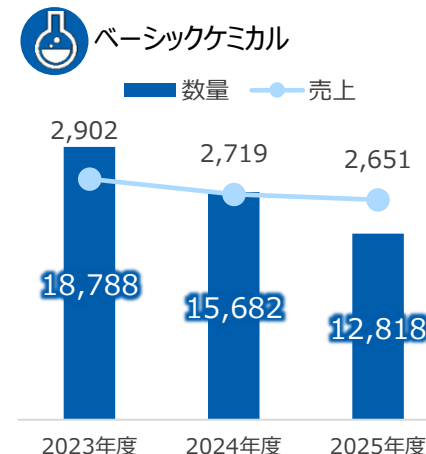
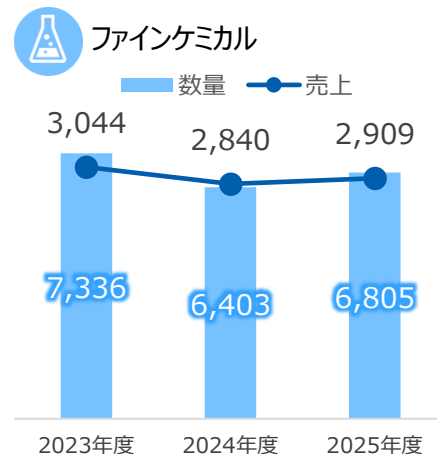
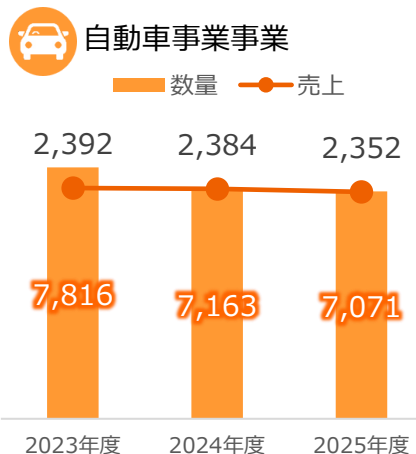
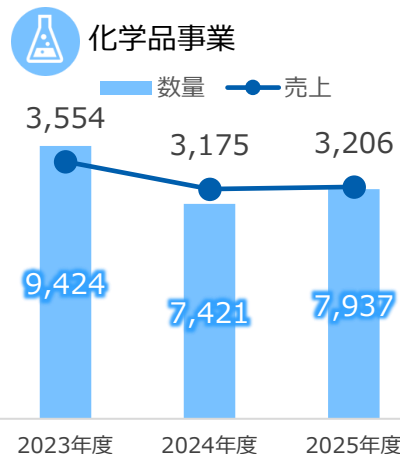
旧事業分類（～2025年度）

事業分類	主要品目
 化学品	製品（ファインケミカル）
	商品（ファインケミカル）
	製品（汎用化学品）
	商品（汎用化学品）
 自動車	製品（油剤・洗浄剤等）
	商品（油剤・洗浄剤等）

新事業分類（2026年度～）

事業分類	主要品目
 ファインケミカル	製品
	商品
 ベーシックケミカル	製品（溶剤）
	商品（溶剤）
	製品（油剤・洗浄剤等）
	商品（油剤・洗浄剤等）

直近3事業年度の売上高および販売数量



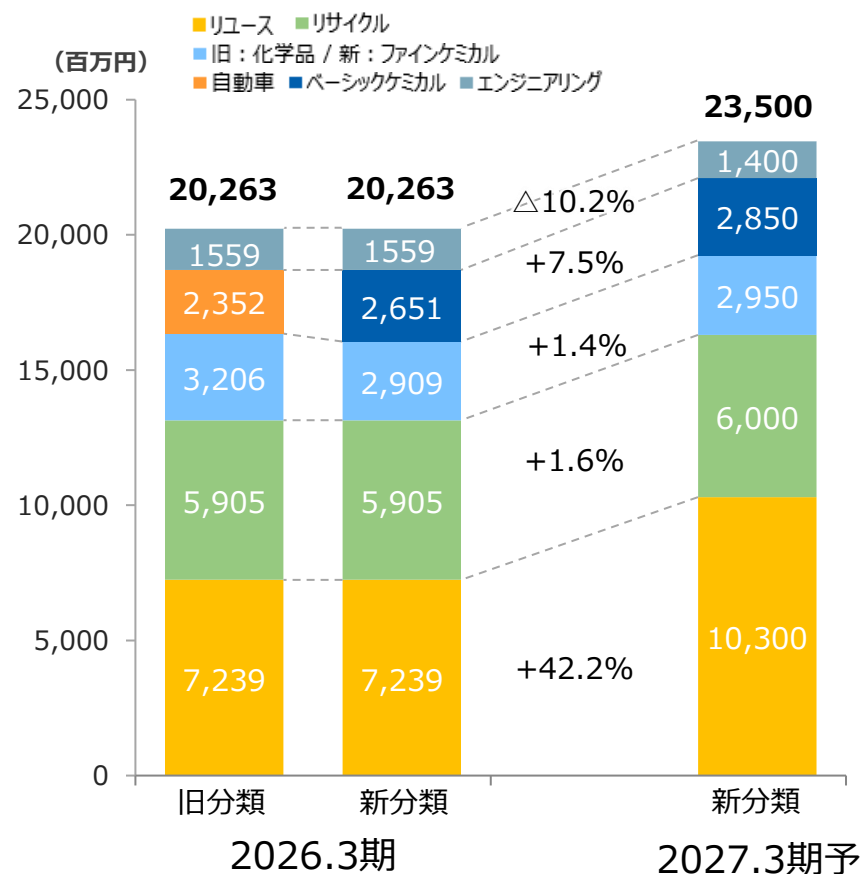
※数量は主要品目としていたため化学品事業の数量に商品（汎用化学品）は含めておりませんが、ベーシックケミカル事業の数量には商品（溶剤）も含めております。

- 2025年10月にM&Aした子会社A&H Japan社が通期でリユース事業に寄与し増収
- M&A費用の発生がなく営業利益増も、工場建設資金借入による利息負担で経常利益増は限定的

		2026年3月期 実績				2027年3月期 計画				通期増減	
		上期	下期	通期	構成比	上期	下期	通期	構成比	増減額	増減率
(単位：百万円)											
売上高	リユース	1,979	5,260	7,239	35.7%	5,100	5,200	10,300	43.8%	+3,061	+42.2%
	リサイクル	2,868	3,037	5,905	29.2%	3,000	3,000	6,000	25.5%	+95	+1.6%
	ファインケミカル	1,537	1,372	2,909	14.3%	1,450	1,500	2,950	12.5%	+41	+1.4%
	ハーシックケミカル	1,296	1,355	2,651	13.1%	1,400	1,450	2,850	12.1%	+199	+7.5%
	エンジニアリング	606	953	1,559	7.7%	700	700	1,400	6.0%	△159	△10.2%
売上高 計		8,287	11,976	20,263	100.0%	11,650	11,850	23,500	100.0%	+3,237	+16.0%
営業利益		492	1,051	1,543	7.6%	800	900	1,700	7.2%	+157	+10.2%
経常利益		586	1,115	1,701	8.4%	760	860	1,620	6.9%	△81	△4.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益		376	695	1,071	5.3%	520	580	1,100	4.7%	+29	+2.7%

- リユース事業及びリサイクル事業を中心に**再資源化事業の拡大により増収を計画**
- エレクトロニクス業界をターゲットにする**ファインケミカル事業では中長期的な拡大を見込む**

事業種別売上高予想



事業種別概況



リユース事業

- 2025年10月に子会社化したA&H Japan社が通期で業績に寄与
- 車載向け電池関係の溶剤再生が増加の見通し



リサイクル事業

- 新規獲得営業に注力し、幅広い業界から産業廃棄物の収集を強化
- 化石燃料の代替として廃棄物由来エネルギーを供給し、脱炭素貢献



ファインケミカル事業

- 車載向け電池バインダー等の製造・販売を拡大
- シリコンサイクルや電池業界の成長速度等の外部環境の影響大



ベーシックケミカル事業

- 新しい機能材の開発、顧客との関係性強化による他事業とのシナジー
- 米国の通商政策や中東情勢の緊迫化等の影響がどの程度か不透明

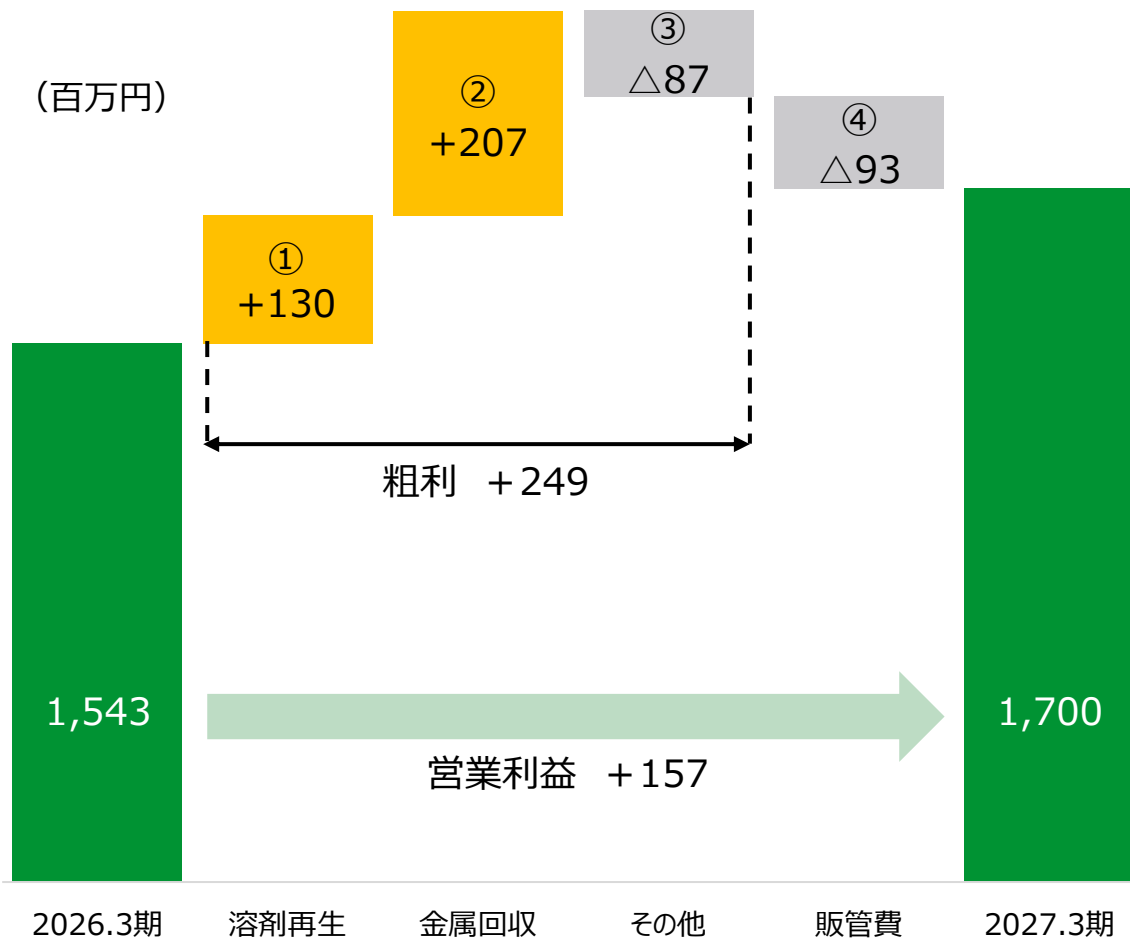


エンジニアリング事業

- 1年がかりとなるプラント解体の大型案件を受注
- PCB処理は2027年3月の処理期限により、受注は先細りを予想

営業利益増減要因分析（前期比）

- 金属回収事業の拡大により粗利額は増加するものの、粗利率は約25%に圧縮
- 事業拡大に備え賃金・給与UP及び研究開発費用は継続的に増加の見込



① 溶剤再生

〈+〉再資源化ニーズの高まりによる取扱数量増

② 金属回収

〈+〉A&H Japan社の通期寄与による利益貢献

③ その他

〈-〉PCB案件減によるエンジニアリング事業の減収
 〈-〉再資源化設備の定修、賃金UP 等

④ 販管費

〈+〉仲介費用、デュー・デリジェンス費用の発生なし
 〈-〉北九州市の工場の稼働準備コストが増加
 〈-〉取扱数量アップによる販売費の増加
 〈-〉人件費、研究開発費の増加 等

〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

■ 2027年3月期 業績予想の前提

為替相場：157 ～ 162 円/\$ （2026/5/12時点：157円/\$）

原油相場：WTI原油 70 ～ 80 \$/バレル （2026/5/12時点：102 \$/バレル）

2027年3月期の業績予想策定において、前提条件は上記の通りとしており、昨今の中東情勢緊迫化により生じる影響は加味しておりません。今後の先行きは不透明であるものの、**短期的には当社にとってプラス要因が大きいと予想しているものの、事態が長期化するとなれば、景気の冷込みから製造業全体の稼働が落込み、当社業績に与える影響はマイナス要因が大きいと予想しております。**

なお、業績予想を見直すこととなった場合には速やかに開示いたします。

プラス要因

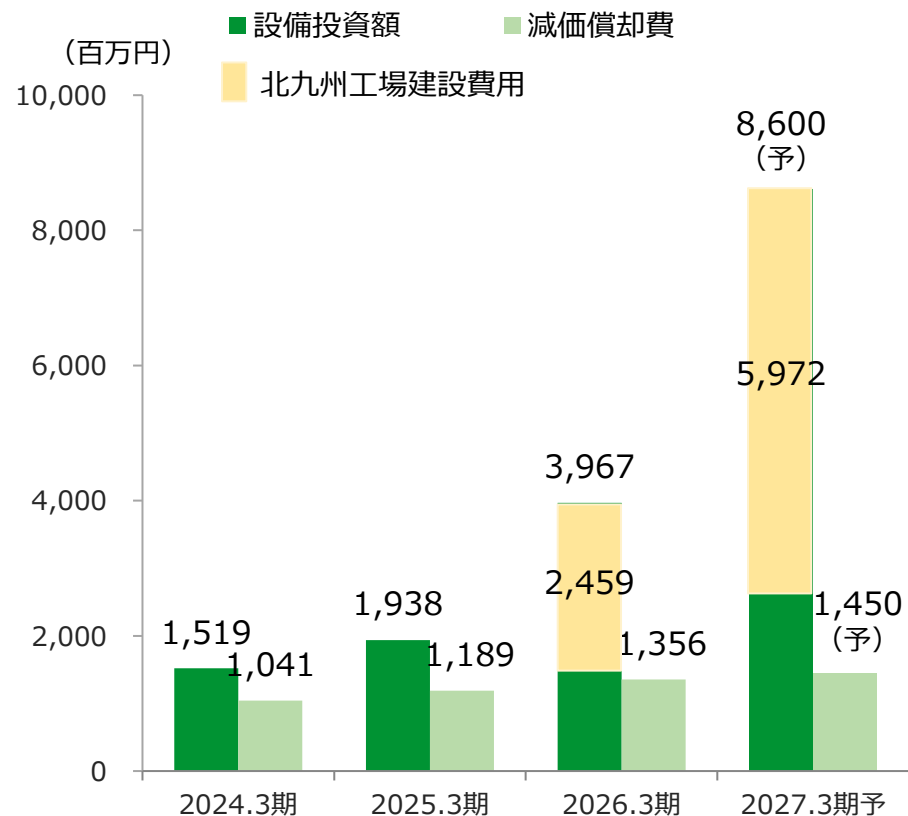
- 資源調達リスクの顕在化により、国内での資源循環ニーズが高まりリユース・リサイクル事業に追い風
- 化石燃料由来の石油化学品の需給逼迫により、再生品に対する旺盛な需要及び価格上昇

マイナス要因

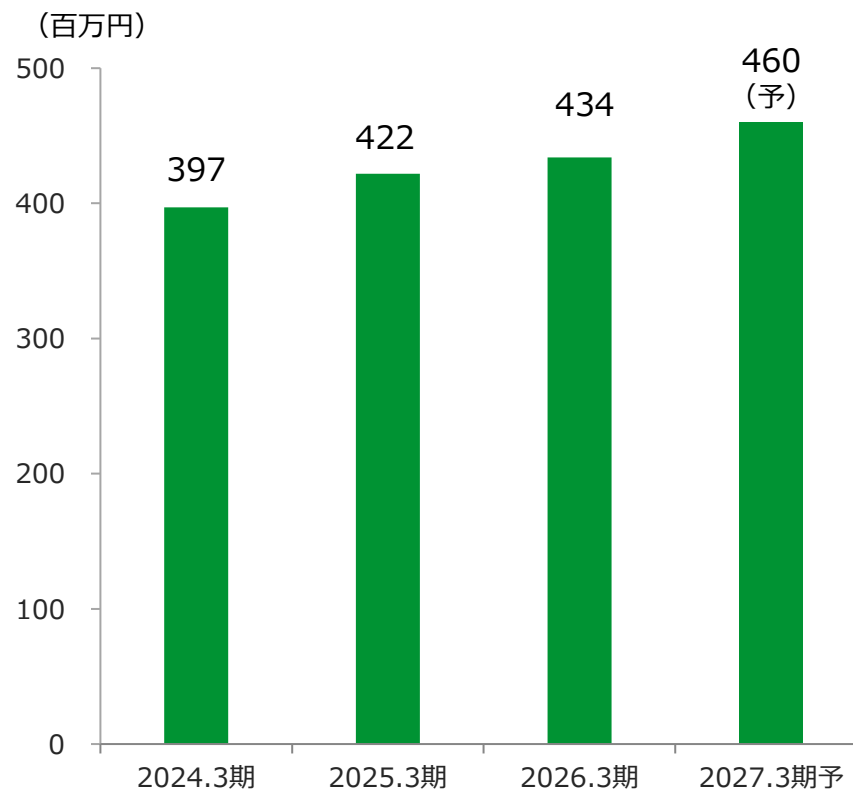
- 景気後退・原料調達難等による顧客企業の生産調整により、再生品原料・廃棄物の収集量減少
- エネルギー・物流費等の各種コスト上昇により業績を圧迫
- 需給バランスの崩れ、価格変動が大きくなることによる在庫リスク

- 本社工場の再生燃料製造設備、子会社の工場建設および金属回収設備等に投資
- 再生品・再生燃料の旺盛な需要に応えるため、再資源化の研究開発に継続的な投資

設備投資額・減価償却費



研究開発費



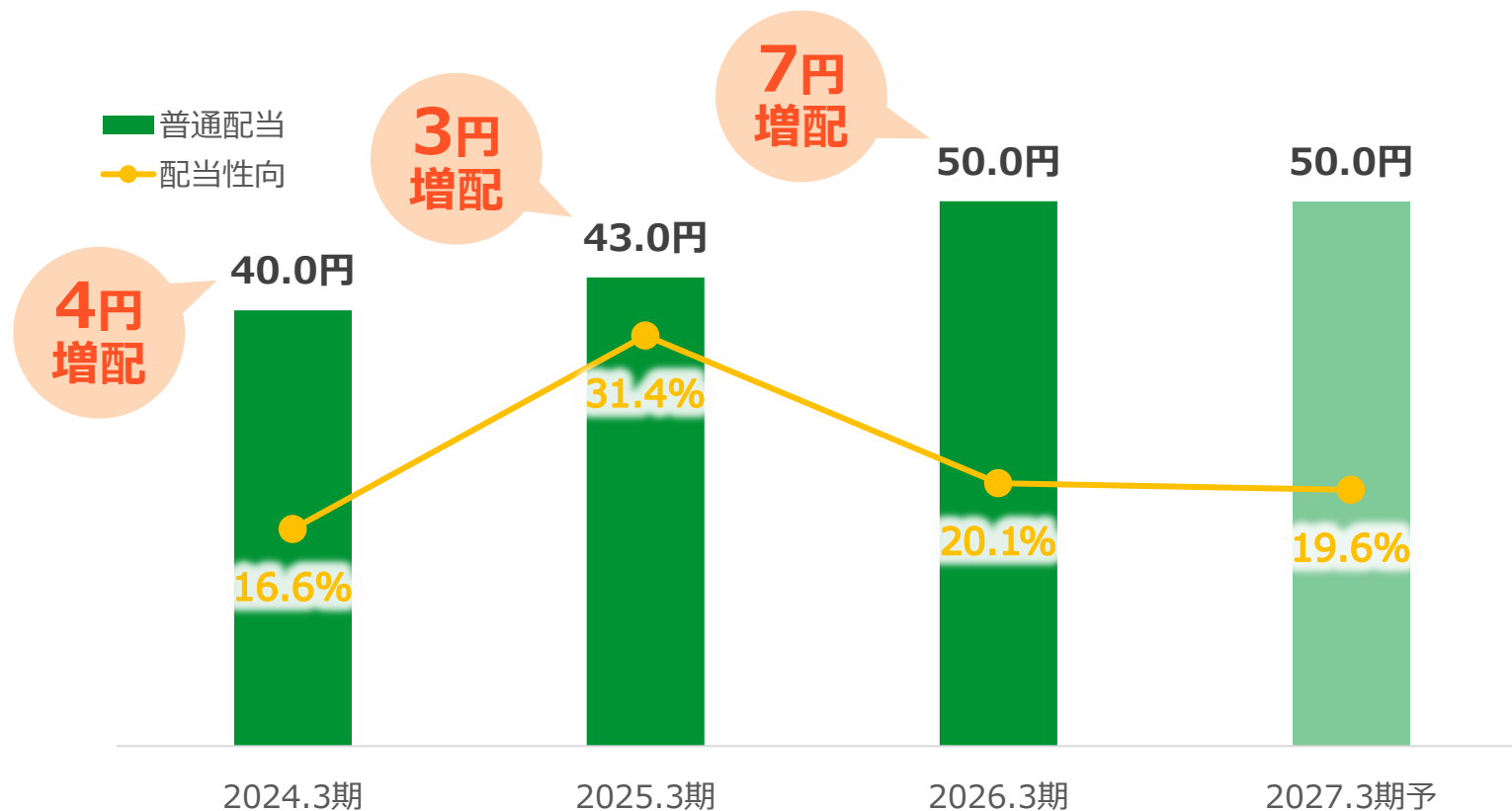
※1 減価償却費にはリース減価償却費を含む

※2 のれん・技術関連資産等の取得額は含めず

配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、非減配を基本方針とし、安定的な配当を継続して実施していきます

1株あたり配当金・配当性向





中期経営計画



- 事業環境と当社グループの強みを踏まえて、経済的価値と社会的価値の向上を図る

事業環境

大企業を中心としたサステナブルニーズの拡大

- 資源調達リスク等の課題解決
- 国内での資源循環、サーキュラーエコノミー
- 化石エネルギーからの転換、脱炭素

半導体・電池・電子部品のマーケット拡大

- 新たな工場建設への投資が加速
- 次世代自動車シフトによるサプライチェーン変化
- 微細化に伴う品質要求厳格化と再生材ニーズ

自社グループの強み

- ① 全国から様々な廃棄物を集める仕組みと特徴ある産廃許可を保有
- ② 輸入依存資源をマテリアルリサイクルできる高度な分離・精製技術を保有
- ③ リサイクル企業であり、メーカーである
- ④ 廃棄物から電子材料まで幅広い事業領域
- ⑤ 全国の優良企業との直需取引

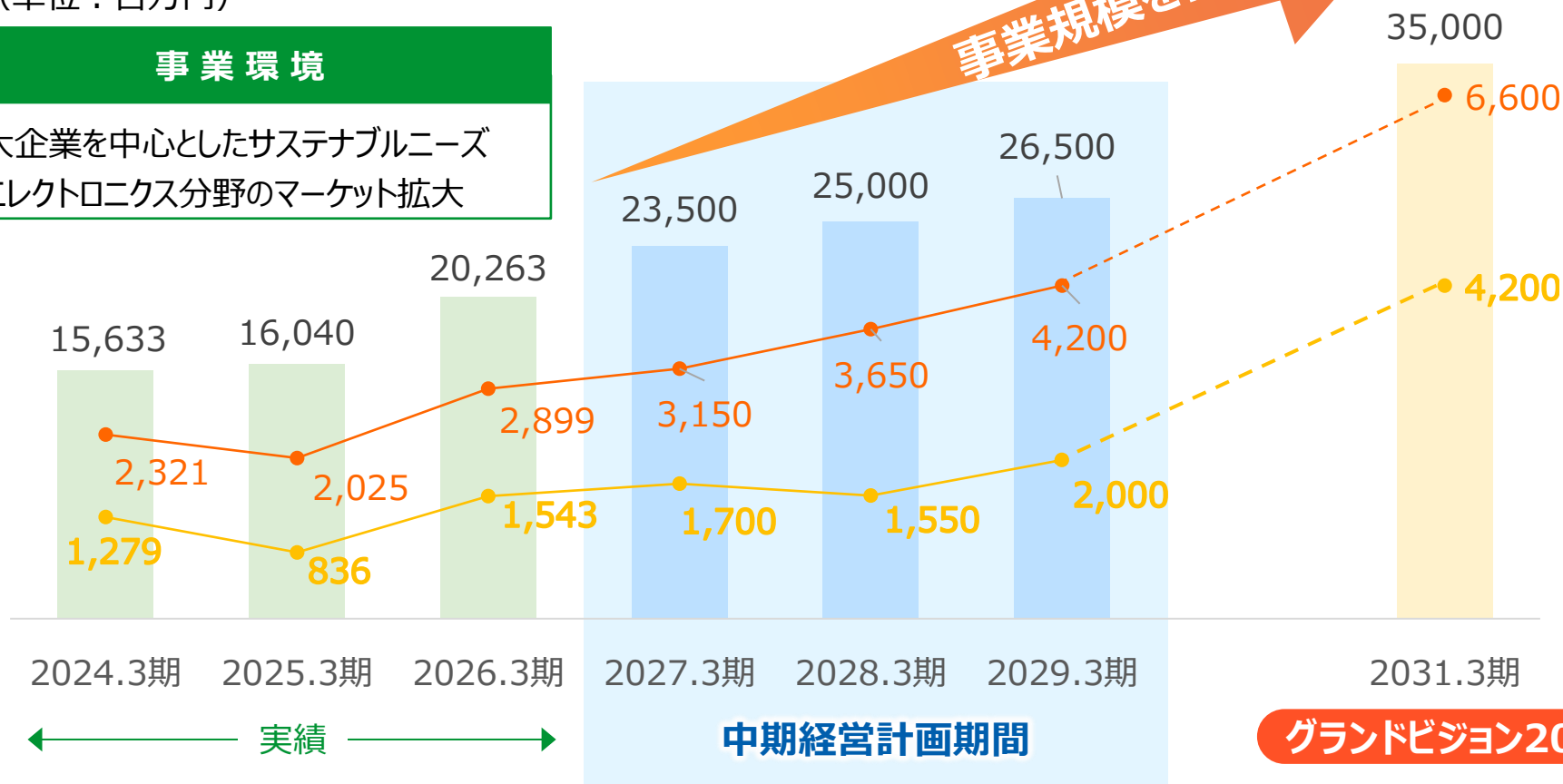
⇒ 拡大するニーズ・マーケットに対し、世の中の役に立つ仕事を通じ
「社会から必要とされる環境リーディングカンパニー」を目指す

- 売上高 350億円 (2026年3月期比 : 1.7倍)
- 営業利益 42億円 (2026年3月期比 : 2.7倍)
- EBITDA 66億円 (2026年3月期比 : 2.3倍)

■ 売上高 ● EBITDA ● 営業利益 ※ EBITDA : 営業利益 + 減価償却費
 (単位 : 百万円)

事業環境

- 大企業を中心としたサステナブルニーズ
- エレクトロニクス分野のマーケット拡大



業績目標

2029年3月期

売上高

26,500百万円

営業利益

2,000百万円

営業利益率

7.5%以上

EBITDA

4,200百万円

EBITDA
マージン

15.8%以上

EBITDA：営業利益＋減価償却費、EBITDAマージン：EBITDA / 売上高

中期経営計画の位置づけ

安定的な事業成長及び 領域拡大による業績伸長

- エレクトロニクス関連産業との取引拡大による成長
- 東西拠点を中心とした新規顧客開拓
- 金属回収や解体工事等の既存事業領域拡張

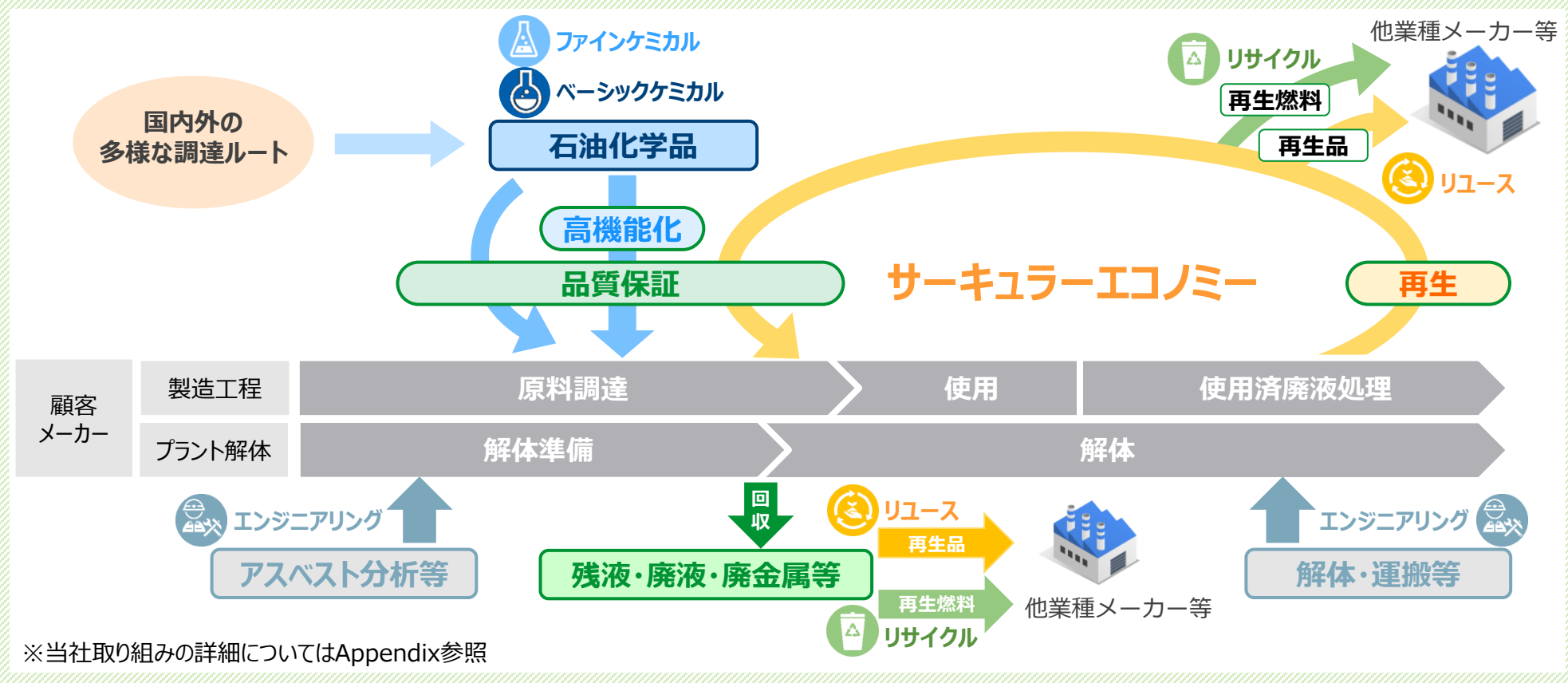
グランドビジョン2030計画達成 に向けた主要な投資の実施

- 約80億円を投資し北九州市に新工場建設
（資源循環投資促進補助金として最大20億円）
- 再資源化設備増設による能力増や分離技術開発

■ 成長産業との親和性の高さを活かし、再資源化ニーズに応え安定的な業績伸長を計画

当社グループの企業戦略（Strategy）

- 輸入依存資源の新液供給およびマテリアルリサイクルの仕組提供
- 多様な企業と強固な関係を築き、資源循環を推進するハブとしての機能強化
- 営業力、技術力および物流網等を融合させ再資源化の対応領域を拡大



- グランドビジョン2030の実現に向け、約80億円を投資し九州地区に新工場建設
- 第1期工事においては成長性の高い半導体業界をターゲットに再資源化ニーズを取込む

九州地区における現状

- 九州地区は半導体関連の工場建設・投資が活況
- 有機/無機化学品の需要が増えていく見通し
- 半導体を中心とした動脈産業の大きな成長見通しに対し、廃棄物の再資源化を行う静脈産業※の体制は不十分

当社の役割

地産地消の再資源化により、サーキュラーエコノミーを実現

- 成長が期待できる地域での新工場建設
- 資源調達リスクに対するBCP対応、製造業顧客のコスト低減、バリューチェーンにおけるCO₂排出量の低減等に貢献

サンワマテリアルソリューションズ株式会社

九州地区に集積している半導体メーカーより排出される使用済化学品の再生を主軸にマテリアルリサイクル・サーマルリサイクルによる再資源化ニーズに対応

所在地 北九州市戸畑区牧山5丁目（AGC株式会社 北九州事業所内）

稼働開始 2027年4月（予定）
※中東情勢緊迫化による物流停滞の影響により遅延可能性あり

建設費用 第1期工事として約80億円の設備投資
（先進的な資源循環投資促進事業補助金が最大約20億円）

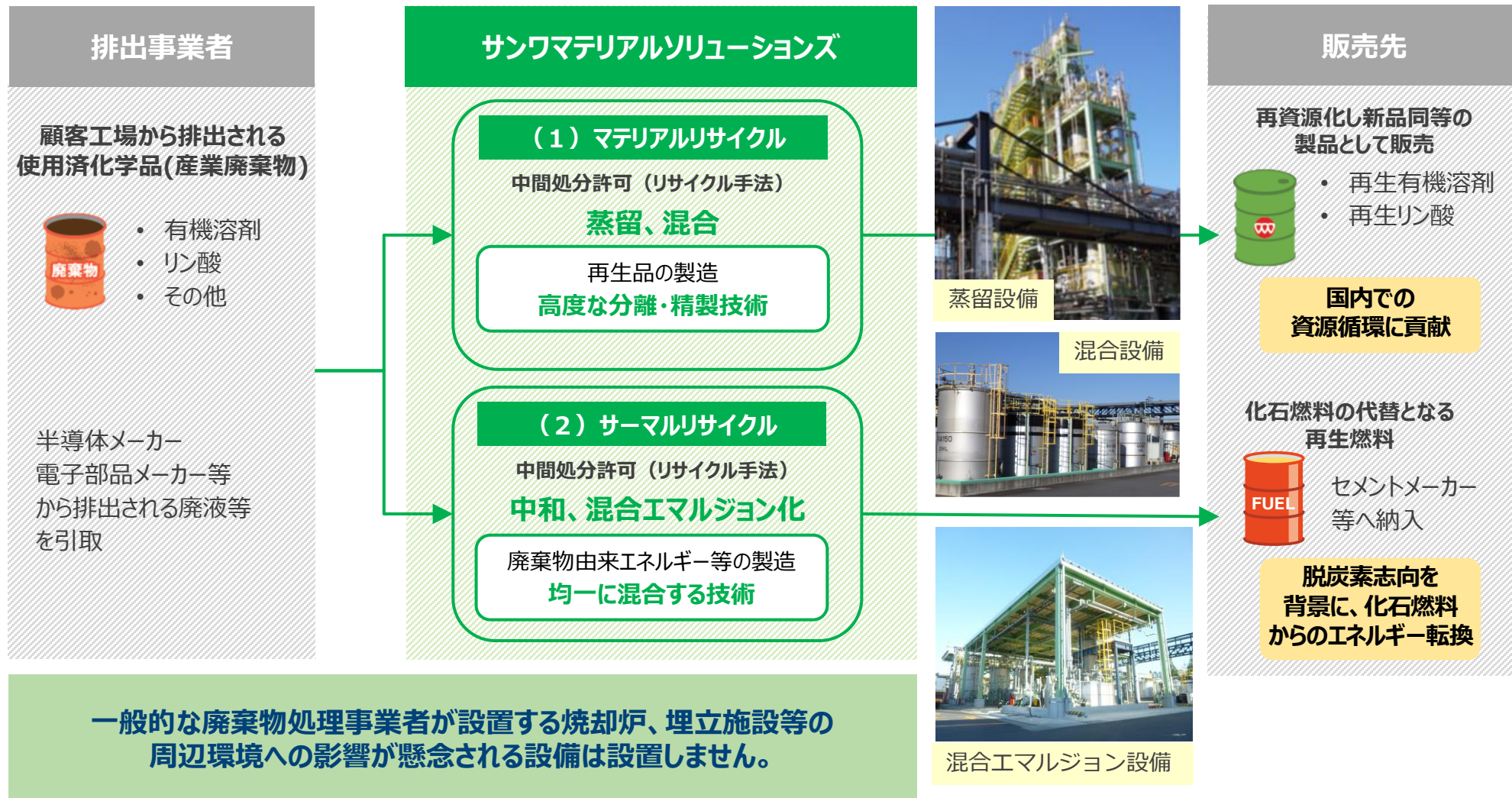
売上計画 2027年度 約12億円
2030年度 約30億円

工場外観(予想図)



※静脈産業：資源を加工して有用な財を生産する諸産業を動脈産業ということに対して、それらの産業が排出した不要物等を社会や資源循環過程に再投入するための事業を行っている産業

- 九州エリアを中心に成長が見込まれる**半導体関連企業等の廃棄物をマテリアルリサイクル**
- マテリアルリサイクルとサーマルリサイクルの2段構えで、**サステナブル社会の実現に貢献**



※ 写真は当社類似設備のものとなります

- 再資源化の需要に対応するため、本社工場および子会社工場での**設備増設に投資**
- 水平リサイクル※やマテリアルリサイクルを推進するため、**新しい分離・精製技術の開発に投資**

再資源化設備の増設

混合エマルジョン化設備増設（愛知県）

- サステナビリティ意識の高まりによる**廃棄物由来燃料への旺盛な需要**をうけ、**再生燃料製造設備を本社工場に増設**

稼働開始 2027年度下期（予定）

投資額 約11億円

売上計画 2029年度 約6億円



既存混合エマルジョン化設備

レアメタル回収設備増設（和歌山県）

- 国内資源循環を推進するため、**工程端材からレアメタルを回収**する設備を増設

稼働開始 2026年度下期（予定）

投資額 約1億円

売上計画 2027年度 約2.5億円



既存レアメタル回収設備

新しい分離・精製技術の開発投資

- 高まる再資源化ニーズを背景に、水平リサイクルや再生品の収率アップ等の、**より高度な分離・精製に対応できるような技術開発**に積極投資
- 本社工場内に実験棟を設け、**高度な分離・精製装置や効率的な前処理装置等の中量試験機を導入し、多様なサンプルを用いて資源循環効率の最大化**を検討
- パイロットプラントを用いて、顧客の工程設計段階から参画することにより、**量産化時にサプライヤーとして選定いただけるよう関係性強化**にも寄与

稼働開始 2025年度～
導入したものをから順次稼働

投資額 約3億円



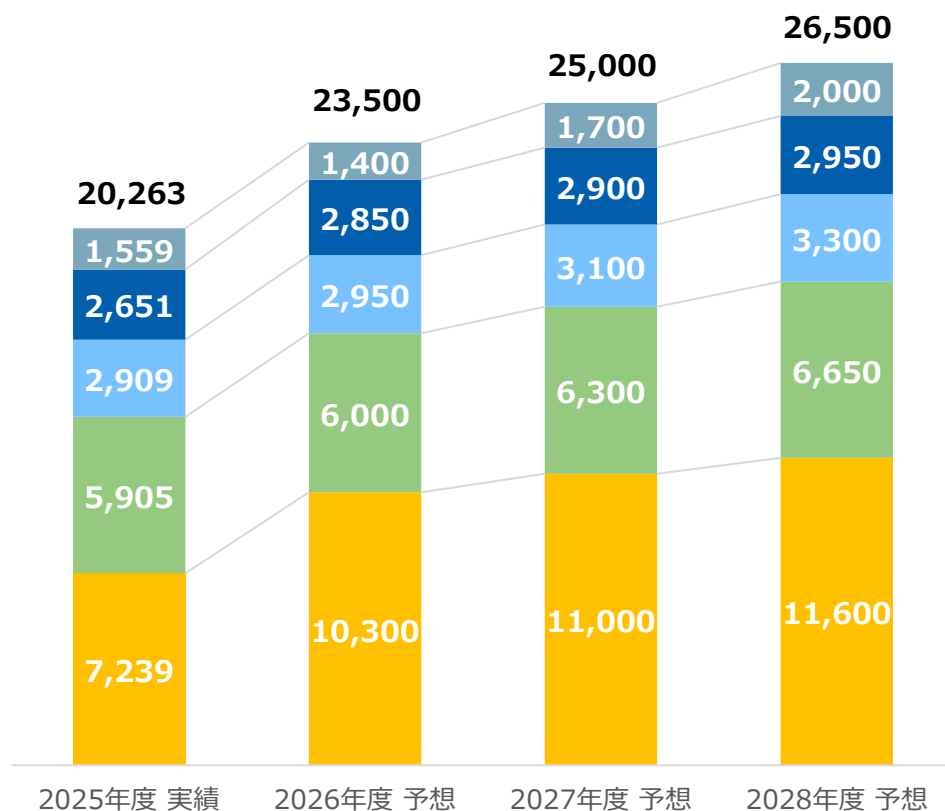
中量試作蒸留設備

※水平リサイクル：使用済化学薬品等を原料として、再び同じ用途で使用できる製品にリサイクルすること

- 事業領域を広げ、新規顧客開拓や成長産業との取引拡大を行い、**安定的な事業成長を計画**
- 中期経営計画期間以降の**継続的な成長のための投資について積極的に実行**

事業種別売上高予想

■ リユース ■ リサイクル ■ ファインケミカル ■ ベーシックケミカル ■ エンジニアリング



事業種別年平均成長率（CAGR）予想

リユース	リサイクル	ファインケミカル	ベーシックケミカル	エンジニアリング	全体
17%	4%	4%	3%	8%	9%

中期経営計画期間中の主要施策

安定的な事業成長及び領域拡大による業績伸長

- エレクトロニクス関連産業との取引拡大による成長
- 東西拠点を中心とした新規顧客開拓
- 金属回収や解体工事等の既存事業領域拡張

グランドビジョン2030計画達成に向けた主要な投資の実施

- 約80億円を投資し北九州市に新工場建設（資源循環投資促進補助金として最大20億円）
- 再資源化設備増設による能力増や分離技術開発

仕組の見直しによる利益の創出

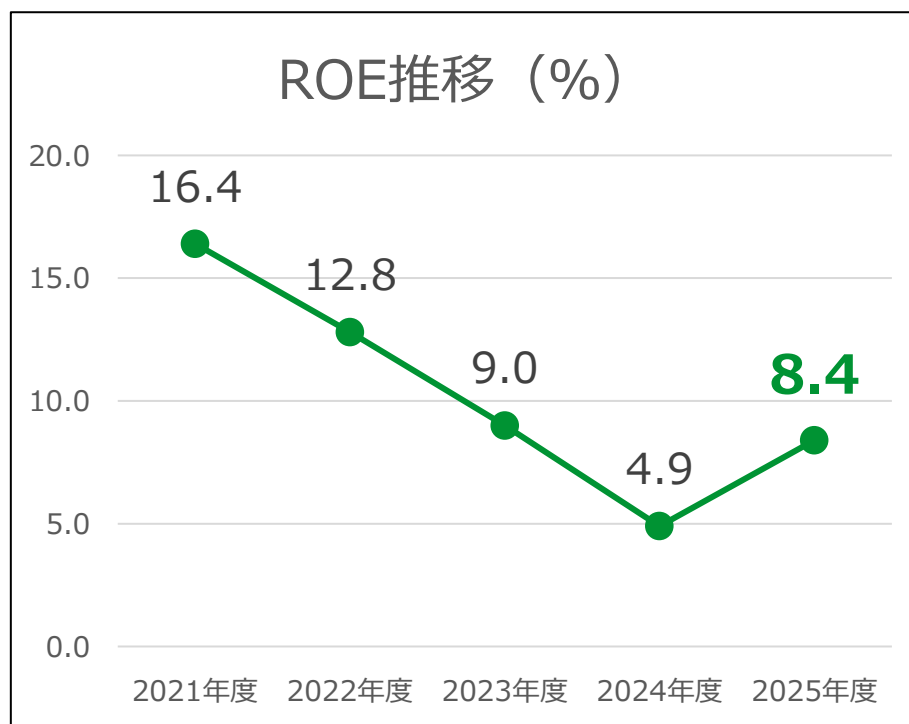
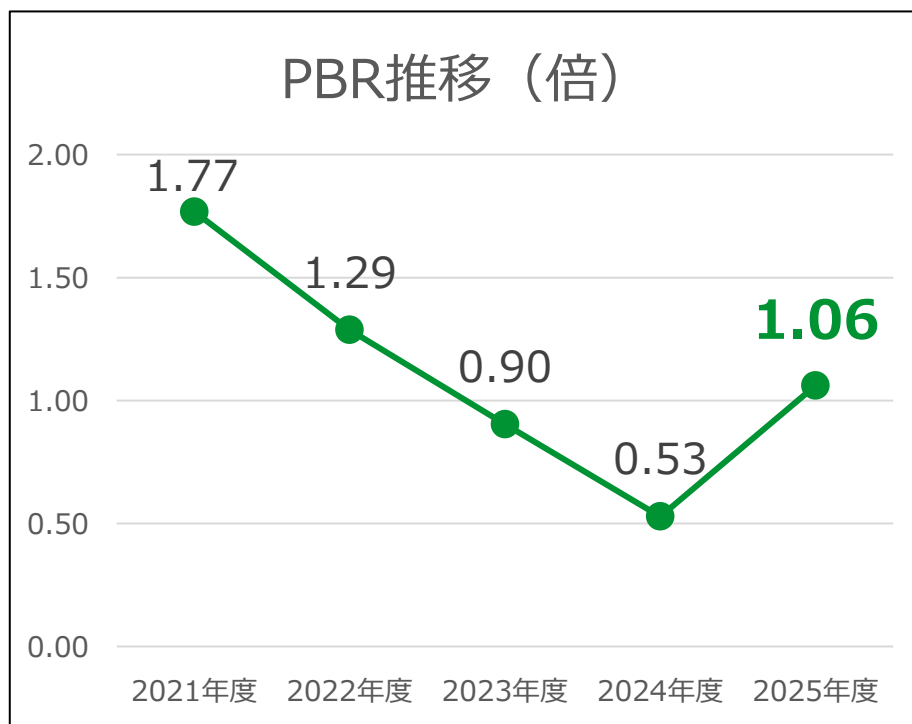
- 生産性向上による付加価値の改善
- 人材の確保・育成の強化と魅力的な職場づくり



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について



- PBRは収益力回復による株価上昇を背景に回復し**1倍を超える水準で推移**
- ROEは2025年度に8.4%まで改善しており、直近事業年度の**株主資本コスト5%程度（CAPMによる）を上回る状況**
- 収益力向上や株主還元の充実、またIR活動強化の取組みの成果が株式市場に評価されていると理解しており、**引続きこれらの取組みを強化・推進**

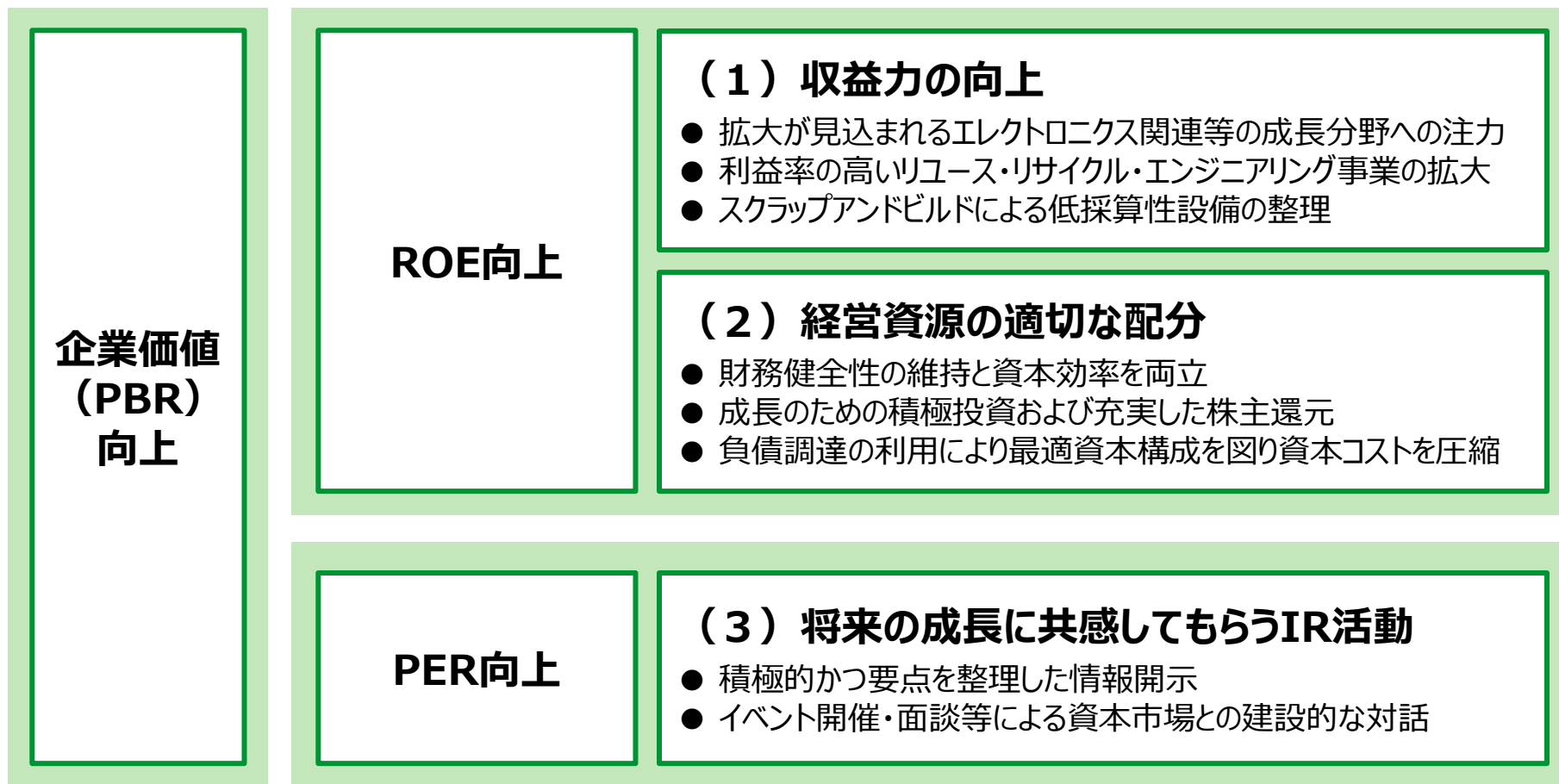


2. 意識する経営目標

- 意識する経営目標として以下のとおり数値目標の見直しを実施
- 当社は、株主資本コストを5%程度（CAPMによる）、WACCを4%程度と認識

	2025年度（実績）	2028年度（目標）	2030年度（目標）
売上高	202億円	265億円	350億円
営業利益	15.4億円	20億円	42億円
ROE	8.4%	9.0%	10.0%
ROIC	5.5%	5.0%	7.0%
マテリアルリサイクル数量	2.7万 t	4.0万 t	6.0万 t

- **企業価値（PBR）の向上に向けては、ROEおよびPERの向上が必要と認識**
- **利益率と回転率の拡大による収益性改善および資本コントロールによりROEを向上**
- **積極的な情報開示、株主・投資家との対話の充実およびガバナンス強化によりPERを向上**





Appendix

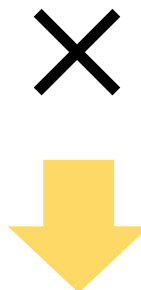


① 半導体業界における当社取組

- 中長期的な成長が見込まれる半導体関連メーカーに対して、**ファインケミカル品の製造販売から使用済化学品・レアメタルの再資源化まで提案**しサステナブルな事業成長を実現

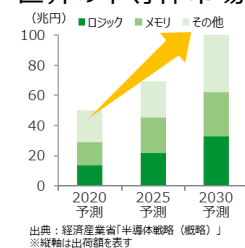
当社グループの強み (Strength)

- 国内唯一の**化学品リサイクルメーカー**
- 廃棄物の**最適な再生(処分)方法を提案**
- **厳格な品質管理体制**



事業機会 (Opportunity)

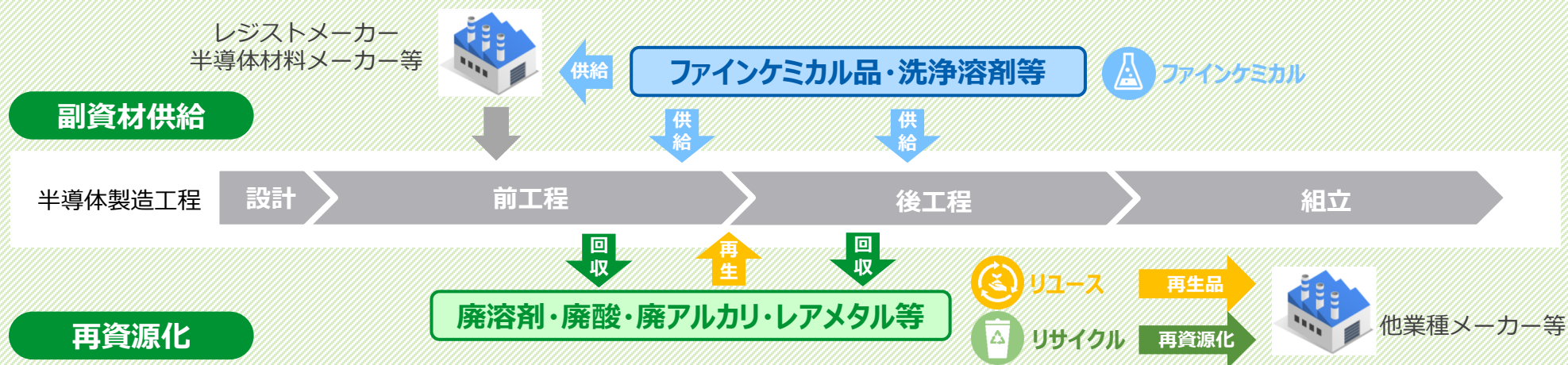
世界の半導体市場



- 市場規模は**今後も拡大傾向**
- **AI・データセンター向けを中心に需要は旺盛**

半導体業界における当社取組 (リユース・リサイクル・ファインケミカル)

- 前・後工程で使用される**薬液の供給**と**使用済化学品・レアメタルの再資源化**

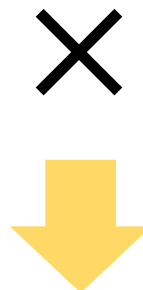


② 電池業界における当社取組

- 市場規模の拡大が見込まれるリチウムイオン二次電池関連メーカーに対して、幅広いモノの取扱いと製造販売から再資源化まで提案することによりサステナブルなサービスを提供

当社グループの強み (Strength)

- 高レベルで分離・精製する技術
- 低水分下で均一に混合する技術
- 国内外の安定的な調達ルート
- 自動車メーカーとの強固な関係性



事業機会 (Opportunity)



- 中長期的には大きな成長が見込める市場
- ESS等の蓄電池は特定重要物資に国が認定

電池業界における当社取組 (リユース・リサイクル・ファインケミカル)

- ファインケミカル品や機能性材料の供給と使用済化学品・レアメタル等の再資源化



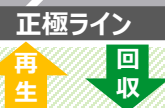
副資材供給

LiB製造工程

正極材製造

電極製造

電池セル製造



再生品

再資源化



他業種メーカー等

再資源化

③ 電子部品業界における当社取組

- 成長が見込まれる電子部品メーカーに対して、ファインケミカル品・再生品の製造販売やアライアンス先との協業等による受託再生により**資源循環ニーズ**に応える

当社グループの強み (Strength)

- 高い**品質管理体制**
- 多様なメーカーとの**直需取引**
- **地産地消**を推進するアライアンス体制



事業機会 (Opportunity)

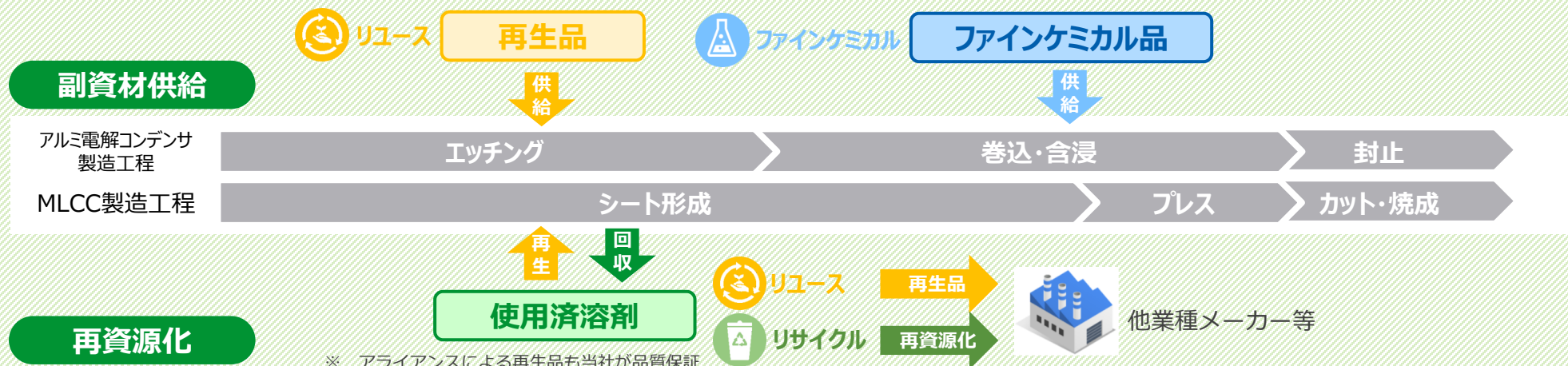
- AI時代の到来により**MLCC、アルミ電解コンデンサ**は需要増加予想
- 日本の**MLCCメーカー**は競争力あり

※ MLCC : 積層セラミックコンデンサ



電子部品業界における当社取組 (リユース・リサイクル・ファインケミカル)

- **ファインケミカル品・再生品の供給と使用済化学品の再資源化**



④ ファインケミカル品の調達及び供給における当社取組

- メーカー各社のBCP対策による調達先多様化やエチレンプラント統廃合により一部のファインケミカル品が希少化することに対し、**調達・供給能力の強化及び使用済化学品の再生を提案**

当社グループの強み (Strength)

- 海外からのファインケミカル品の調達ルート
- 使用済化学品の再生
- 湾岸地域の大型タンク



▲ 危険物タンク

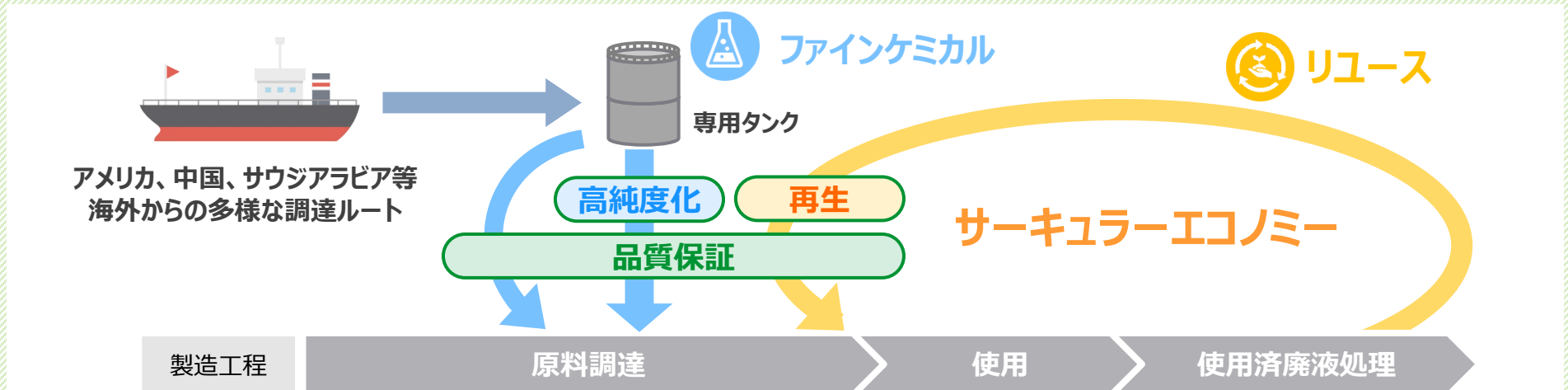


事業機会 (Opportunity)

- メーカー各社による**調達チャネルの多様化**
- エチレンプラントの統廃合により、**消費量の少ないファインケミカル品が希少化**
- 主要ユーザーと保管場所の**立地環境**

ファインケミカル品の調達及び供給における当社取組 (リユース・ファインケミカル)

- 国内で希少化したファインケミカル品の供給及び廃液の再生による資源調達リスクの低減



⑤ エンジニアリング事業における当社取組

- 国内エチレンプラントは、老朽化と低稼働率により**構造的縮小**となり、**化学プラント解体案件は増加**
- 解体工事により発生する**残液や金属を回収し、リユース・リサイクル事業により再資源化**

当社グループの強み (Strength)

- 産廃処理・収運、**特定建設業の許可保有**
- **石油化学関連企業との強固な関係性**
- **多数の資格保有者が在職**

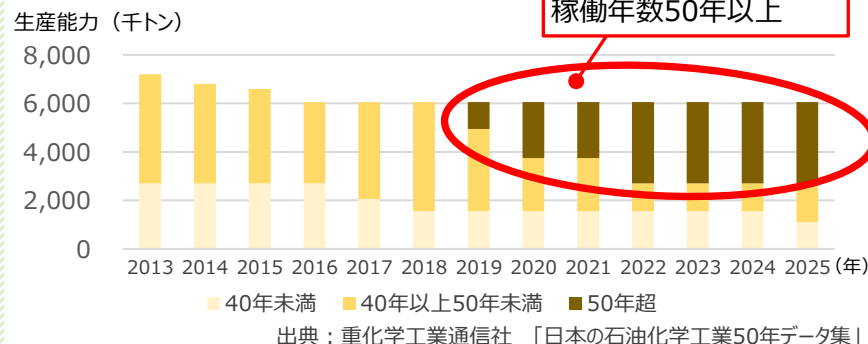
資格名	保持者数 (人)	資格名	保持者数 (人)
1級施工管理技士	2	特定化学物質及びアルキル鉛等作業主任者	12
石綿作業主任者	9	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	32
職長教育 (オールトヨタ)	20	PCB廃棄物収集運搬作業従事者	19



事業機会 (Opportunity)

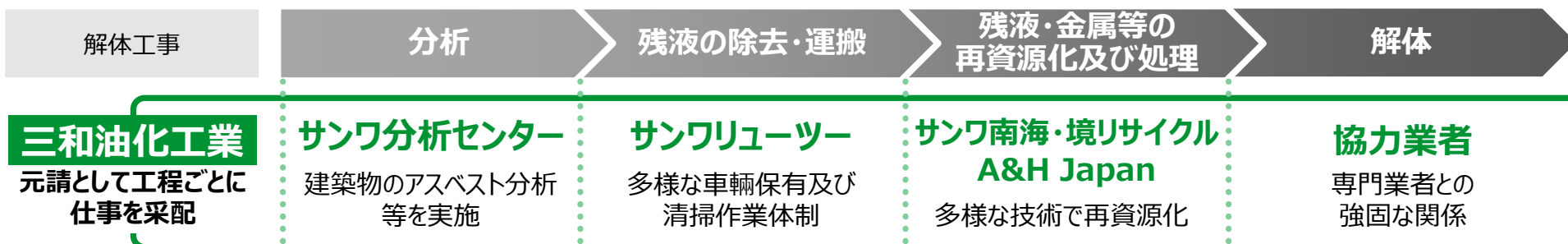
- **業界再編によりエチレンプラントが統廃合**

エチレンプラント設備の稼働年数



エンジニアリング事業における当社取組 (リユース・リサイクル・エンジニアリング)

- **分析・残液抜き取り・処理から設備撤去まで、グループ企業でワンストップサービスを提供**



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://www.sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。